

環境に関する県民等意識調査報告書

1 調査目的

環境保全の各分野に関する県民や事業所の意識の変化や行動の実態を把握することにより、新岡山県環境基本計画に掲げる主要施策等を見直すための基礎資料とする。

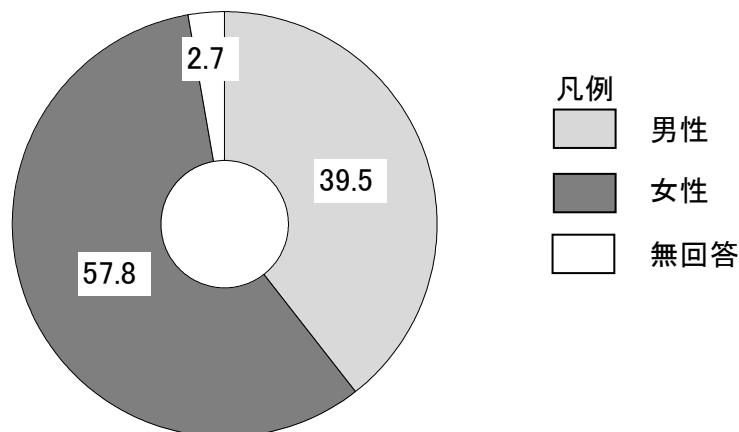
2 調査方法等

	県民調査	事業所調査
調査地域	岡山県全域	
調査対象	20歳以上の県内在住者	従業員数30人以上の事業所
標本数	2,500人	500社
回答数(率)	1,394人(55.8%)	258社(51.6%)
調査方法	往復郵送方式	
調査期間	平成24年6月	

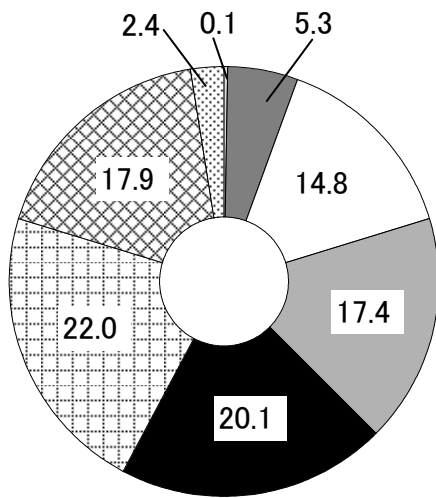
3 県民調査

(1) 回答者属性

【性別】



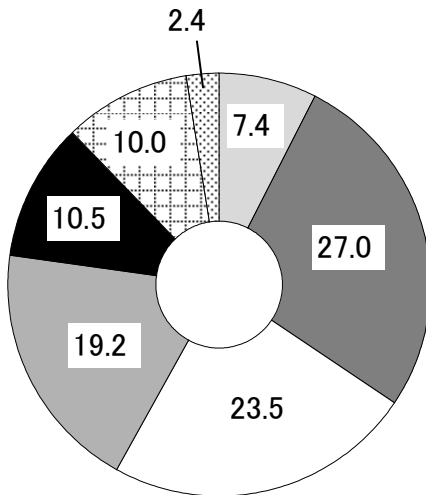
【年齢】



凡例

- 20歳未満
- 20~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60~69歳
- 70歳以上
- 無回答

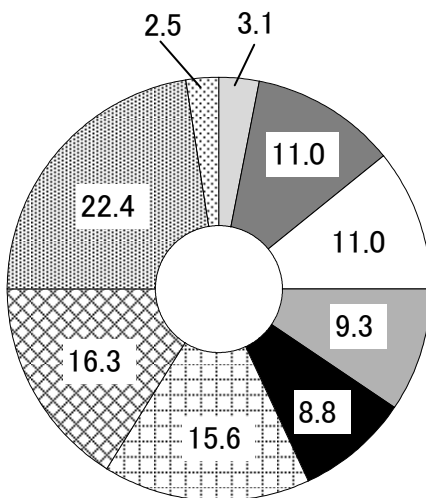
【家族人数】



凡例

- 1人
- 2人
- 3人
- 4人
- 5人
- 6人以上
- 無回答

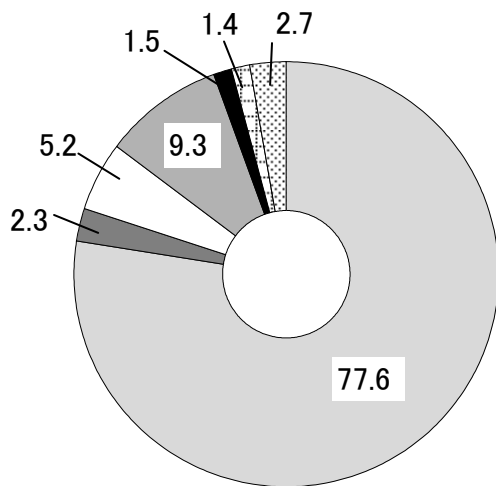
【居住年数】



凡例

- 1年未満
- 1~4年
- 5~9年
- 10~14年
- 15~19年
- 20~29年
- 30~39年
- 40年以上
- 無回答

【居住形態】



凡例

- 持ち家一戸建
- 持ち家マンション
- 貸家一戸建
- 民間賃貸マンション・アパート
- 市町村営、県営等公営の賃貸住宅
- その他
- 無回答

【地域別】

市町村	回答数	構成割合 (%)	市町村	回答数	構成割合 (%)
岡山市北区	216	15.5	美作市	23	1.6
岡山市中区	95	6.8	浅口市	26	1.9
岡山市東区	80	5.7	和気町	9	0.6
岡山市南区	101	7.2	早島町	6	0.4
倉敷市	338	24.2	里庄町	9	0.6
津山市	58	4.2	矢掛町	12	0.9
玉野市	39	2.8	新庄村	3	0.2
笠岡市	39	2.8	鏡野町	14	1.0
井原市	28	2.0	勝央町	4	0.3
総社市	44	3.2	奈義町	6	0.4
高梁市	30	2.2	西粟倉村	5	0.4
新見市	26	1.9	久米南町	4	0.3
備前市	29	2.1	美咲町	14	1.0
瀬戸内市	29	2.1	吉備中央町	9	0.6
赤磐市	29	2.1	無回答	33	2.4
真庭市	36	2.6	計	1,394	100.0

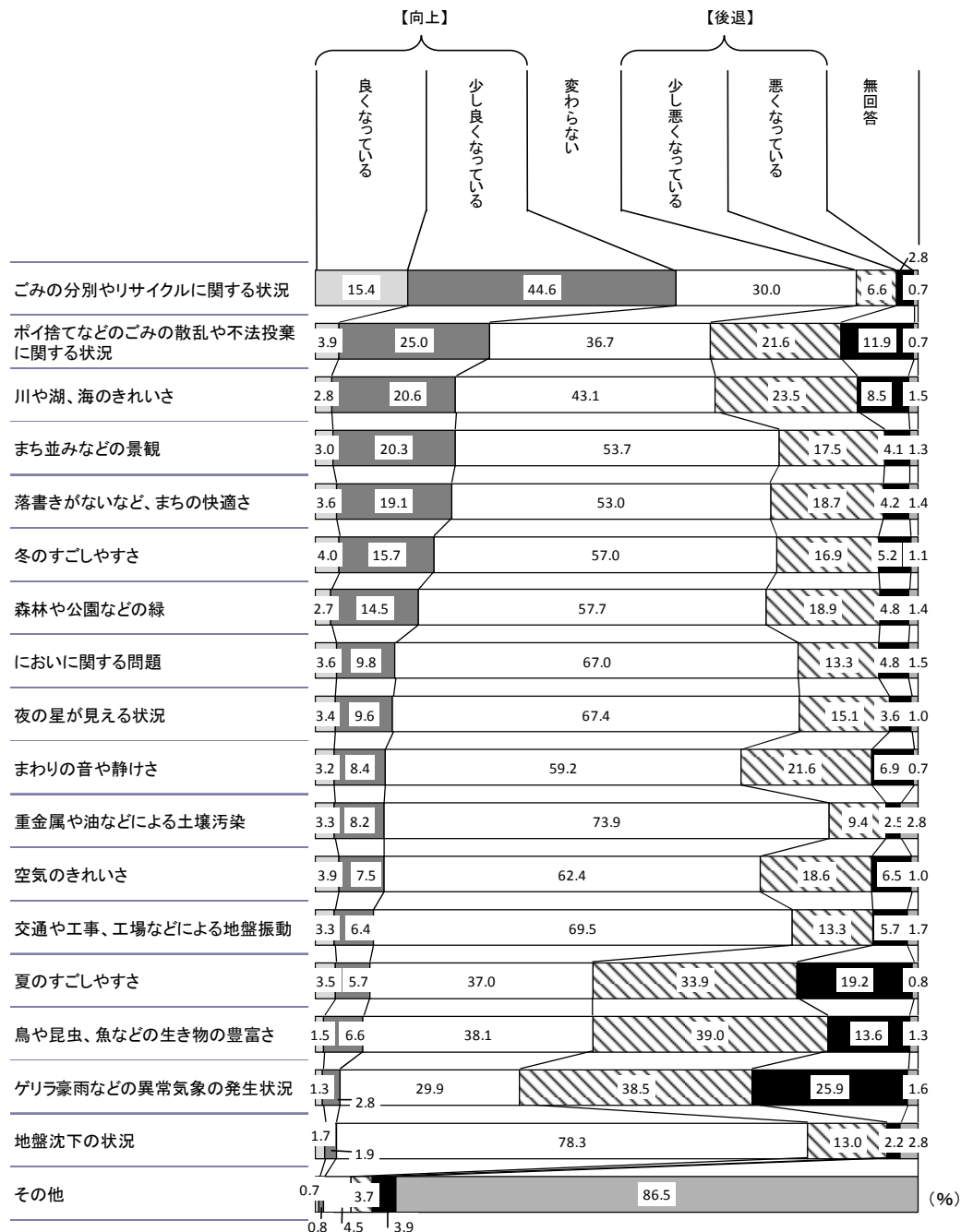
(2) 調査結果

① 現在の環境に対する実感について

あなたは、近年、身近な環境の状況についてどのような実感をお持ちですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
【向上】 [良くなっている 少し良くなっている]	・『ごみの分別やリサイクルに関する状況』の項目で、【向上】が約6割となっている。
【後退】 [少し悪くなっている 悪くなっている]	・『ゲリラ豪雨などの異常気象の発生状況』、『鳥や昆虫、魚などの生き物の豊富さ』、『夏のすごしやすさ』の項目で、【後退】が5割を超えている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
【向上】 〔良くなっている 少し良くなっている〕	・『落書きがないなど、まちの快適さ』の項目で、【向上】が約 20 ポイント増加している。一方、『ごみの分別やりサイクルに関する状況』、『ポイ捨てなどごみの散乱や不法投棄に関する状況』の項目では、約 20 ポイント減少している。
【後退】 〔少し悪くなっている 悪くなっている〕	・『ポイ捨てなどごみの散乱や不法投棄に関する状況』、『川や湖、海のきれいさ』の項目で、【後退】がそれぞれ約 30 ポイント、約 20 ポイント減少している。一方、『鳥や昆虫、魚などの生き物の豊富さ』の項目で、10 ポイント増加している。

※前回の調査では、身近な環境全般の実感をまず伺い、その要因を項目として選択したため、単純には比較できない。

【身近な環境の状況についての経年変化】

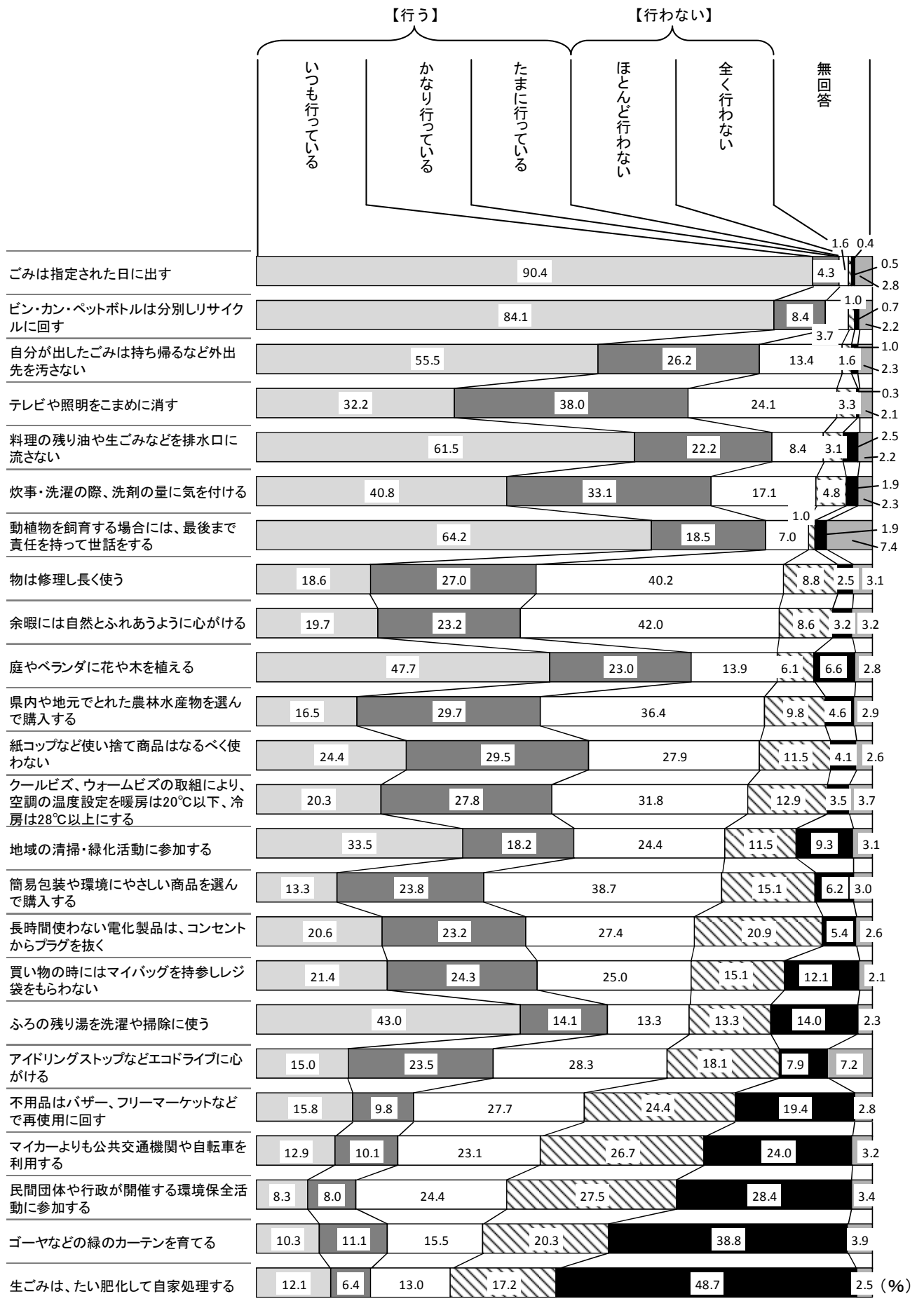
項目	向上			後退		
	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
ごみの分別やりサイクルに関する状況	78.1	60.0	-18.1 ↓	21.5	9.4	-12.1 ↓
ポイ捨てなどごみの散乱や不法投棄に関する状況	47.7	29.0	-18.7 ↓	58.8	33.5	-25.3 ↓
川や湖、海のきれいさ	23.6	23.4	-0.2 ↓	51.2	32.0	-19.2 ↓
まち並みなどの景観	14.2	23.3	9.1 ↑	18.0	21.6	3.6 ↑
落書きがないなど、まちの快適さ	4.0	22.7	18.7 ↑	33.4	23.0	-10.4 ↓
冬の過ごしやすさ		19.7	新規追加		22.1	新規追加
森林や公園などの緑	13.9	17.2	3.3 ↑	19.6	23.7	4.1 ↑
においに関する問題		13.3	新規追加		18.2	新規追加
夜の星が見える状況		13.0	新規追加		18.6	新規追加
まわりの音や静けさ	7.6	11.6	4.0 ↑	34.5	28.5	-6.0 ↓
重金属や油などによる土壌汚染		11.5	新規追加		11.8	新規追加
空気のきれいさ	4.8	11.5	6.7 ↑	34.3	25.0	-9.3 ↓
交通や工事、工場などによる地盤振動		9.7	新規追加		19.1	新規追加
夏の過ごしやすさ		9.2	新規追加		53.1	新規追加
鳥や昆虫、魚などの生き物の豊富さ	9.8	8.0	-1.8 ↓	42.5	52.5	10.0 ↑
ゲリラ豪雨などの異常気象の発生状況		4.2	新規追加		64.3	新規追加
地盤沈下の状況		3.6	新規追加		15.3	新規追加
その他	6.3	1.5	-4.8 ↓	15.2	7.5	-7.7 ↓

② 環境に配慮した日常生活の行動について

あなた(及びあなたの家族)は日ごろ、次のような行動をどの程度行っていますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
【行う】 [いつも行っている かなり行っている たまに行っている]	・『ごみは指定された日に出す』、『ビン・カン・ペットボトルは分別しリサイクルに回す』、『自分が出したごみは持ち帰るなど外出先を汚さない』、『料理の残り油や生ごみなどを排水口に流さない』、『動植物を飼育する場合には、最後まで責任を持って世話をする』の項目では、【行う】のなかでも、「いつも行っている」割合が5割を超えている。
【行わない】 [ほとんど行わない 全く行わない]	・『生ごみは、たい肥化して自家処理する』、『ゴーヤなどの緑のカーテンを育てる』、『民間団体や行政が開催する環境保全活動に参加する』、『マイカーよりも公共交通機関や自転車を利用する』の項目で、【行わない】が5割を超えている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
<p>【行う】</p> <p>（ いつも行っている かなり行っている たまに行っている ）</p>	<p>・『買い物時にはマイバッグを持参しレジ袋をもらわない※』、『民間団体や行政が開催する環境保全活動に参加する※』、『地域の清掃・緑化活動に参加する』の項目で【行う】が 10 ポイント以上増加している。一方、『クールビズ、ウォームビズの取組により、空調の温度設定を暖房は 20℃以下、冷房は 28℃以上にする※』の項目では、10 ポイント以上減少している。</p>
<p>【行わない】</p> <p>（ ほとんど行わない 全く行わない ）</p>	<p>・『クールビズ、ウォームビズの取組により、空調の温度設定を暖房は 20℃以下、冷房は 28℃以上にする※』の項目で、【行わない】が 10 ポイント以上増加している。一方、『地域の清掃・緑化活動に参加する』、『マイカーよりも公共交通機関や自転車を利用する』、『買い物時にはマイバッグを持参しレジ袋をもらわない』の項目で、【行わない】が 10 ポイント以上減少している。</p> <p>・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『民間団体や行政が開催する環境保全活動に参加する※』、『生ごみは、たい肥化して自家処理する』、『マイカーよりも公共交通機関や自転車を利用する』の項目で【行わない】が5割を超えている。</p>

※設問項目の変更による影響が原因の 1 つとして考えられる。以下の表に設問の対応を示す。

平成 24 年度と平成 19 年度の設問項目の対応

平成 19 年度の設問項目	平成 24 年度の設問項目
買い物時には、ポリ袋やビニール袋をもらわない。	買い物時にはマイバッグを持参しレジ袋をもらわない。
民間団体の環境保全活動に参加する。	民間団体や行政が開催する環境保全活動に参加する。
冷暖房の使用にあたっては、省エネルギーに心がける。	クールビズ、ウォームビズの取組により、空調の温度設定を暖房は 20℃以下、冷房は 28℃以上にする。

【日頃の行動についての経年変化】

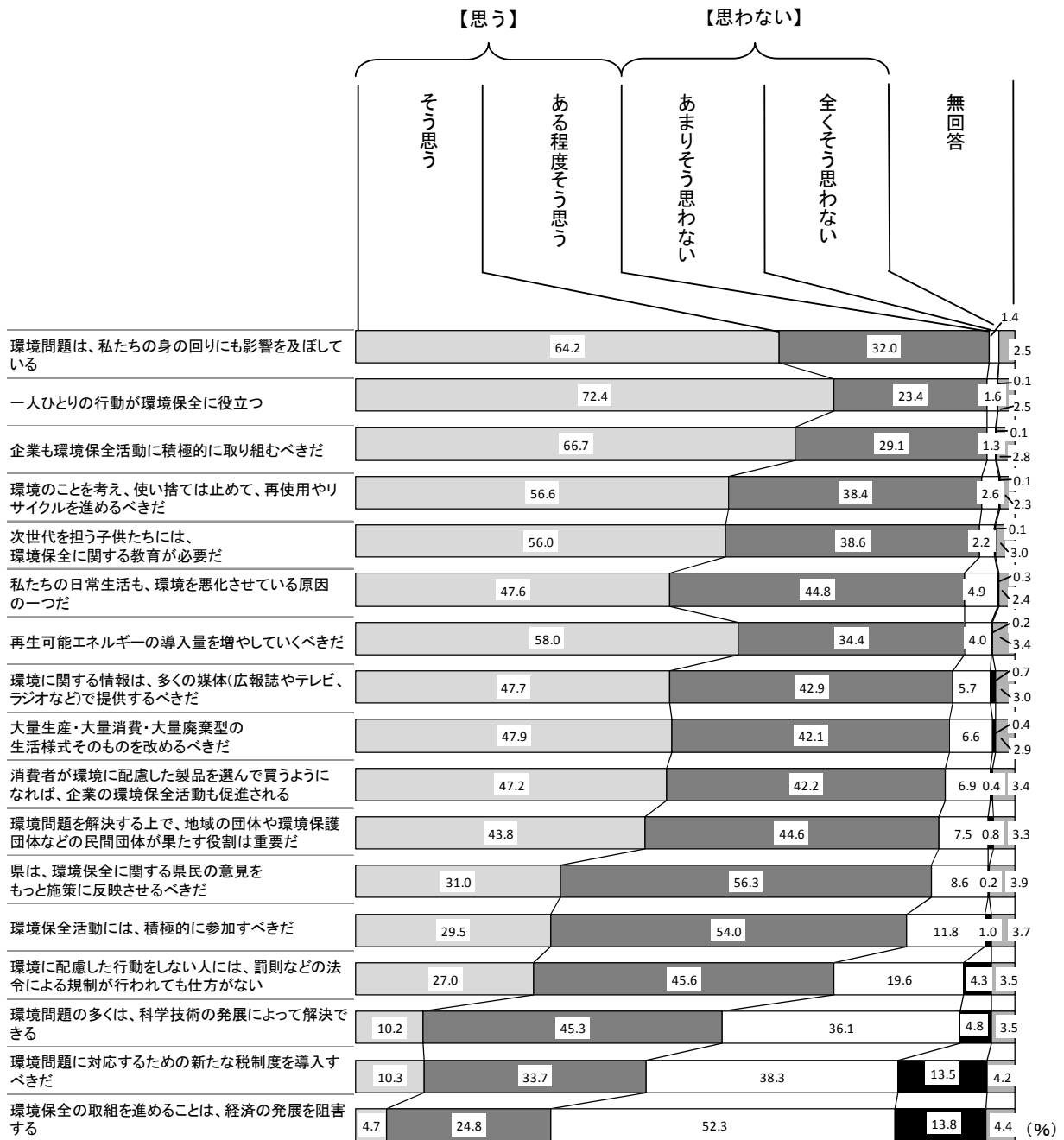
項目	行う			行わない		
	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
ごみは指定された日に出す	97.4	96.3	-1.1 ↓	0.5	1.0	0.5 ↑
ビン・カン・ペットボトルは分別リサイクルに回す	95.6	96.2	0.6 ↑	2.2	1.6	-0.6 ↓
自分が出したごみは持ち帰るなど外出先を汚さない	96.3	95.2	-1.1 ↓	1.4	2.5	1.1 ↑
テレビや照明をこまめに消す	92.7	94.3	1.6 ↑	5.8	3.6	-2.2 ↓
料理の残り油や生ごみなどを排水口に流さない	85.7	92.2	6.5 ↑	11.9	5.6	-6.3 ↓
炊事・洗濯の際、洗剤の量に気を付ける	87.4	91.0	3.6 ↑	9.4	6.7	-2.7 ↓
動植物を飼育する場合には、最後まで責任を持って世話をする		89.7	新規追加		2.9	新規追加
物は修理し長く使う	92.8	85.7	-7.1 ↓	4.7	11.3	6.6 ↑
余暇には自然とふれあうように心がける	81.7	84.9	3.2 ↑	14.9	11.8	-3.1 ↓
庭やベランダに花や木を植える	88.8	84.6	-4.2 ↓	9.1	12.7	3.6 ↑
県内や地元でとれた農林水産物を選んで購入する		82.6	新規追加		14.5	新規追加
紙コップなど使い捨て商品はなるべく使わない	80.3	81.8	1.5 ↑	15.7	15.6	-0.1 ↓
クールビズ、ウォームビズの取組により、空調の温度設定を暖房は20℃以下、冷房は28℃以上にする	94.2	79.9	-14.3 ↓	3.7	16.4	12.7 ↑
地域の清掃・緑化活動に参加する	62.1	76.1	14.0 ↑	34.8	20.9	-13.9 ↓
簡易包装や環境にやさしい商品を選んで購入する	80.5	75.7	-4.8 ↓	15.8	21.3	5.5 ↑
長時間使わない電化製品は、コンセントからプラグを抜く	74.6	71.2	-3.4 ↓	23.6	26.2	2.6 ↑
買い物の時にはマイバッグを持参しレジ袋をもらわない	53.4	70.6	17.2 ↑	43.4	27.3	-16.1 ↓
ふろの残り湯を洗濯や掃除に使う	71.4	70.4	-1.0 ↓	26.2	27.3	1.1 ↑
アイドリングストップなどエコドライブに心がける	70.5	66.8	-3.7 ↓	19.9	26.0	6.1 ↑
不用品はバザー、フリーマーケットなどで再使用に回す	53.9	53.4	-0.5 ↓	43.1	43.8	0.7 ↑
マイカーよりも公共交通機関や自転車を利用する	44.7	46.1	1.4 ↑	52.4	50.7	-1.7 ↓
民間団体や行政が開催する環境保全活動に参加する	24.7	40.8	16.1 ↑	70.8	55.9	-14.9 ↓
ゴーヤなどの緑のカーテンを育てる		36.9	新規追加		59.2	新規追加
生ごみは、たい肥化して自家処理する	33.5	31.6	-1.9 ↓	63.7	65.9	2.2 ↑

③ 環境問題に対する考え方について

環境問題に対して、次のような考えや意見があります。各項目について、あなたの考えや意見に最も近いものはどれですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
【思わない】 〔あまりそう思わない〕 〔全くそう思わない〕	・『環境保全の取組を進めることは、経済の発展を阻害する』、 『環境問題に対応するための新たな税制度を導入すべきだ』の 項目で、【思わない】が5割を超えている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
【思う】 〔 そう思う ある程度そう思う 〕	・『環境保全の取組を進めることは、経済の発展を阻害する』、『環境保全活動には、積極的に参加すべきだ』などの項目で、【思う】が 10 ポイントを超えて増加している。
【思わない】 〔 あまりそう思わない 全くそう思わない 〕	・『環境保全活動には、積極的に参加すべきだ』、『環境問題の多くは、科学技術の発展によって解決できる』などの項目で、【思わない】が 10 ポイントを超えて減少している。 ・両年ともに、『環境保全の取組を進めることは、経済の発展を阻害する』の項目で、【思わない】が6割を超えている。

【環境問題に対する考え方や意見についての経年変化】

項目	思う			思わない		
	H19の構成割合	H24の構成割合	H24-H19	H19の構成割合	H24の構成割合	H24-H19
環境問題は、私たちの身の回りにも影響を及ぼしている	91.2	96.1	4.9 ↑	5.3	1.4	-3.9 ↓
一人ひとりの行動が環境保全に役立つ		95.8	新規追加		1.6	新規追加
企業も環境保全活動に積極的に取り組むべきだ	91.0	95.8	4.8 ↑	4.4	1.5	-2.9 ↓
環境のことを考え、使い捨ては止めて、再利用やリサイクルを進めるべきだ	93.3	94.9	1.6 ↑	3.4	2.8	-0.6 ↓
次世代を担う子供たちには、環境保全に関する教育が必要だ	94.7	94.6	-0.1 ↓	1.3	2.4	1.1 ↑
私たちの日常生活も、環境を悪化させている原因の一つだ		92.4	新規追加		5.2	新規追加
再生可能エネルギーの導入量を増やしていくべきだ		92.3	新規追加		4.2	新規追加
環境に関する情報は、多くの媒体(広報誌やテレビ、ラジオなど)で提供すべきだ	92.0	90.6	-1.4 ↓	2.9	6.4	3.5 ↑
大量生産・大量消費・大量廃棄型の生活様式そのものを改めるべきだ	89.3	90.0	0.7 ↑	6.3	7.1	0.8 ↑
消費者が環境に配慮した製品を選んで買うようになれば、企業の環境保全活動も促進される	89.6	89.3	-0.3 ↓	6.0	7.3	1.3 ↑
環境問題を解決する上で、地域の団体や環境保護団体などの民間団体が果たす役割は重要だ	90.3	88.4	-1.9 ↓	5.3	8.3	3.0 ↑
県は、環境保全に関する県民の意見をもっと施策に反映させるべきだ	92.2	87.3	-4.9 ↓	2.9	8.8	5.9 ↑
環境保全活動には、積極的に参加すべきだ	69.5	83.5	14.0 ↑	24.1	12.8	-11.3 ↓
環境に配慮した行動をしない人には、罰則などの法令による規制が行われても仕方がない	74.3	72.6	-1.7 ↓	20.3	23.9	3.6 ↑
環境問題の多くは、科学技術の発展によって解決できる	42.6	55.5	12.9 ↑	51.2	41.0	-10.2 ↓
環境問題に対応するための新たな税制度を導入すべきだ		44.0	新規追加		51.8	新規追加
環境保全の取組を進めることは、経済の発展を阻害する	14.9	29.5	14.6 ↑	77.9	66.1	-11.8 ↓

※平成 24 年度『環境問題に対応するための新たな税制度を導入すべきだ』の項目は、設問内容が大きく異なるため対象外としている。(平成 19 年度の対応する項目は『環境問題に対応する税制度の導入は、経済の発展に好ましくない』である。)

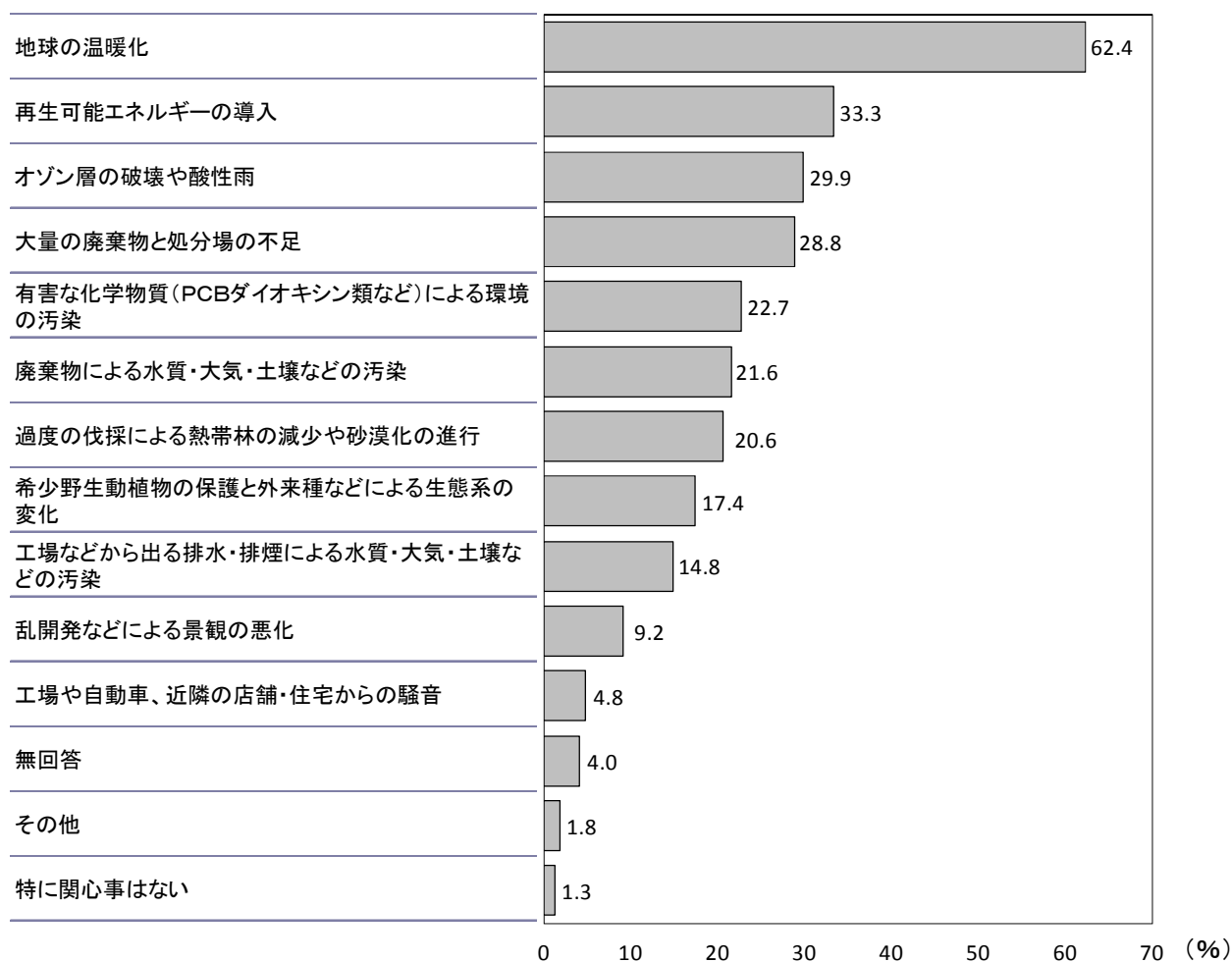
④ 関心のある環境問題について

あなたが、次にあげる環境問題で、関心があるものはどれですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『地球の温暖化』の項目で最も高く、6割を超えている。

(複数回答:3つまで)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・新規追加を除く11項目中の5項目で増加、6項目で減少している。
増加した項目	・10ポイント近く増加している項目はなかった。
減少した項目	・『地球の温暖化』、『工場などから出る排水・排煙による水質・大気・土壌などの汚染』、『過度の伐採による熱帯林の減少や砂漠化の進行』の項目で、関心が10ポイント以上減っている。

【関心のある環境問題についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	
地球の温暖化	79.5	62.4	-17.1	↓
再生可能エネルギーの導入		33.3	新規追加	
オゾン層の破壊や酸性雨	39.6	29.9	-9.7	↓
大量の廃棄物と処分場の不足	27.1	28.8	1.7	↑
有害な化学物質(PCBダイオキシン類など)による環境の汚染	26.7	22.7	-4.0	↓
廃棄物による水質・大気・土壌などの汚染		21.6	新規追加	
過度の伐採による熱帯林の減少や砂漠化の進行	30.6	20.6	-10.0	↓
希少野生動植物の保護と外来種などによる生態系の変化		17.4	新規追加	
工場などから出る排水・排煙による水質・大気・土壌などの汚染	27.4	14.8	-12.6	↓
乱開発などによる景観の悪化	9.7	9.2	-0.5	↓
工場や自動車、近隣の店舗・住宅からの騒音	4.3	4.8	0.5	↑
無回答	3.6	4.0	0.4	↑
その他	1.5	1.8	0.3	↑
特に関心事はない	0.3	1.3	1.0	↑

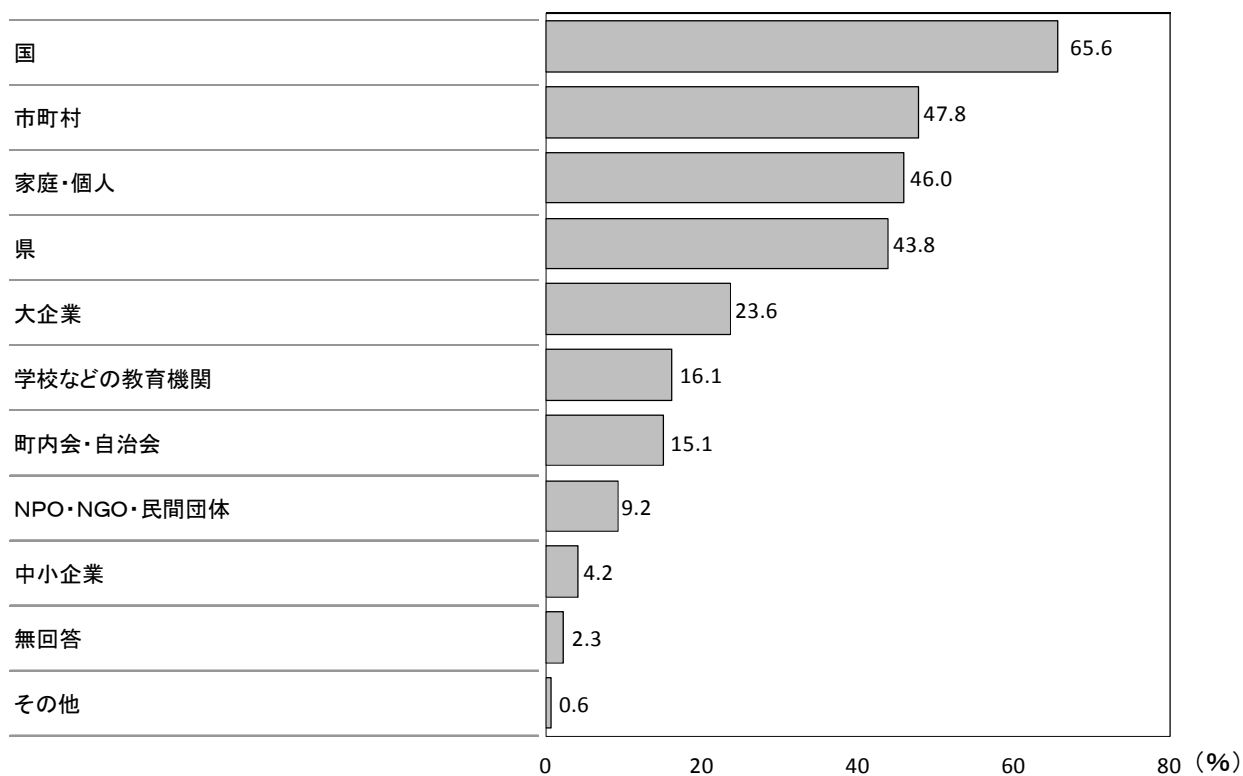
⑤ 活動すべき主体について

あなたは、環境保全を進めるためには、だれが主に活動すべきと思いますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『国』の項目が最も高く、次いで『市町村』、『家庭・個人』、『県』という項目の順となっている。

(複数回答:3つまで)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・11 項目中の5項目で増加、6項目で減少している。
増加した項目	・『県』の項目で 10 ポイント以上増加している。
減少した項目	・『大企業』の項目で、10 ポイント近く減少している。

【活動すべき主体についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
国	71.5	65.6	-5.9 ↓
市町村	40.8	47.8	7.0 ↑
家庭・個人	48.3	46.0	-2.3 ↓
県	33.0	43.8	10.8 ↑
大企業	31.8	23.6	-8.2 ↓
学校などの教育機関	14.4	16.1	1.7 ↑
町内会・自治会	14.5	15.1	0.6 ↑
NPO・NGO・民間団体	5.5	9.2	3.7 ↑
中小企業	4.9	4.2	-0.7 ↓
無回答	3.6	2.3	-1.3 ↓
その他	0.7	0.6	-0.1 ↓

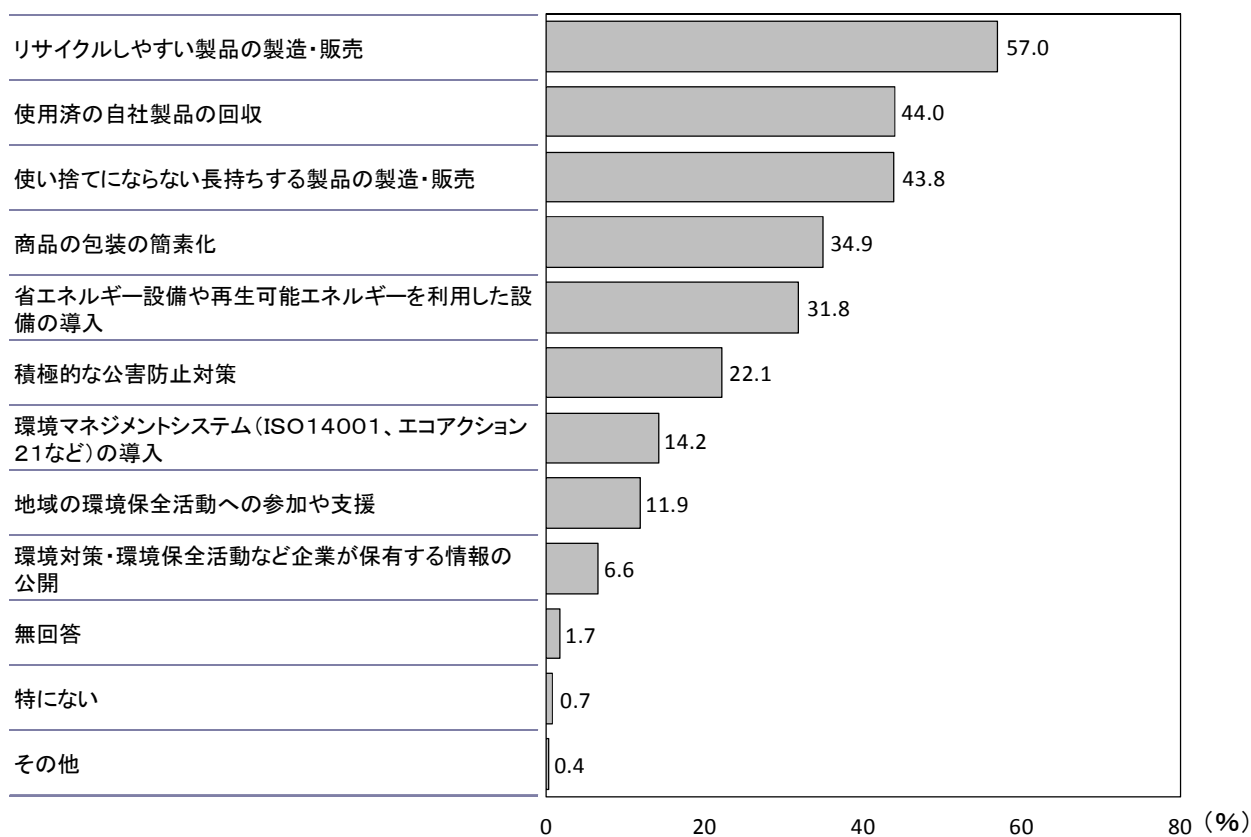
⑥ 環境と企業活動について

あなたは、環境保全を進めるために、企業にどのようなことを望みますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『リサイクルしやすい製品の製造・販売』の項目が最も高く、次いで『使用済の自社製品の回収』、『使い捨てにならない長持ちする製品の製造・販売』という項目の順となっている。

(複数回答:3つまで)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・12 項目中の5項目で増加、7項目で減少している。
増加した項目	・『リサイクルしやすい製品の製造・販売』の項目で、10 ポイント近く増加している。
減少した項目	・『商品の包装の簡素化』の項目で、10 ポイント以上減少している。

【環境保全活動を進めるために、企業に望むことについての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
リサイクルしやすい製品の製造・販売	47.8	57.0	9.2 ↑
使用済の自社製品の回収	44.6	44.0	-0.6 ↓
使い捨てにならない長持ちする製品の製造・販売	40.6	43.8	3.2 ↑
商品の包装の簡素化	46.3	34.9	-11.4 ↓
省エネルギー設備や再生可能エネルギーを利用した設備の導入	25.2	31.8	6.6 ↑
積極的な公害防止対策	28.5	22.1	-6.4 ↓
環境マネジメントシステム(ISO14001、エコアクション21など)の導入	11.2	14.2	3.0 ↑
地域の環境保全活動への参加や支援	15.3	11.9	-3.4 ↓
環境対策・環境保全活動など企業が保有する情報の公開	12.3	6.6	-5.7 ↓
無回答	3.5	1.7	-1.8 ↓
特にない	0.4	0.7	0.3 ↑
その他	0.5	0.4	-0.1 ↓

⑦ 環境学習や環境保全活動への参加について

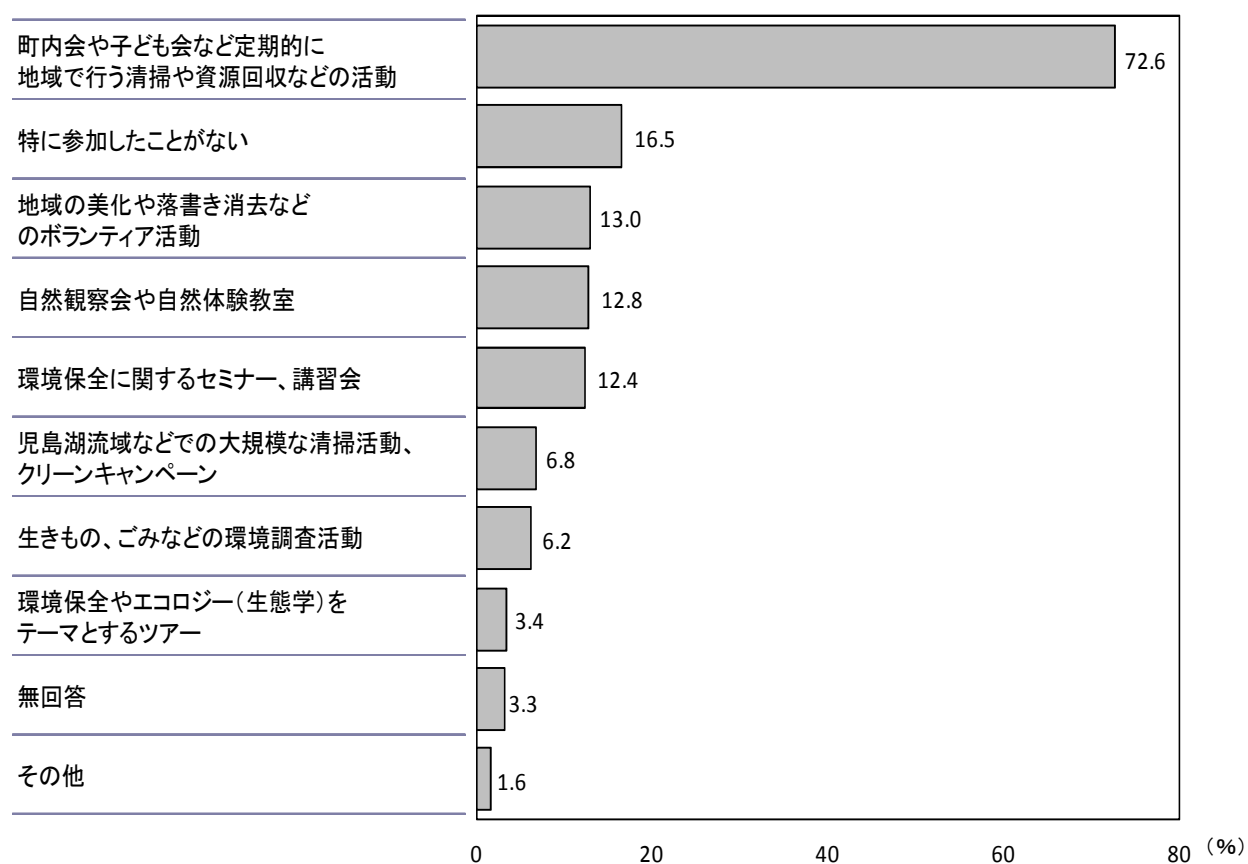
【参加実績】

次のような環境保全に関する学習の場や活動がありますが、あなたは、これまでに参加したことがあるものがありますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『町内会や子ども会など定期的に地域で行う清掃や資源回収などの活動』が7割以上で最も高い割合となっている。

(複数回答)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・10 項目中の8項目で増加、2項目で減少している。
増加した項目	・『町内会や子ども会など定期的に地域で行う清掃や資源回収などの活動』の項目が、10 ポイント近く増加している。
減少した項目	・『特に参加したことがない』の項目が 10 ポイント近く減少している。

【参加したことのある環境保全に関する学習会や活動についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
町内会や子ども会など定期的に地域で行う 清掃や資源回収などの活動	65.2	72.6	7.4 ↑
特に参加したことがない	23.8	16.5	-7.3 ↓
地域の美化や落書き消去などのボランティア活動	11.5	13.0	1.5 ↑
自然観察会や自然体験教室	9.9	12.8	2.9 ↑
環境保全に関するセミナー、講習会	10.4	12.4	2.0 ↑
児島湖流域などでの大規模な清掃活動、ク リーンキャンペーン	4.7	6.8	2.1 ↑
生きもの、ごみなどの環境調査活動	4.2	6.2	2.0 ↑
環境保全やエコロジー(生態学)を テーマとするツアー	2.0	3.4	1.4 ↑
無回答	3.9	3.3	-0.6 ↓
その他	1.5	1.6	0.1 ↑

【不参加の理由】

【参加実績】で、「特に参加したことがない」とお答えの方にお聞きします。今まで、参加しなかった理由を教えてください。

●平成 24 年度

項目	結果の要点
参加しなかった理由	・『情報がない』が最も多く、次いで『忙しい』、『機会がない』という順番になった。

※理由の回答は 115 件あった。複数の項目を回答している場合があり、それぞれを1回答として扱った。

回答の分類	回答数	割合(%)
情報がない	42	36.5
興味がない	16	13.9
機会がない	26	22.6
忙しい	29	25.2
その他	18	15.7

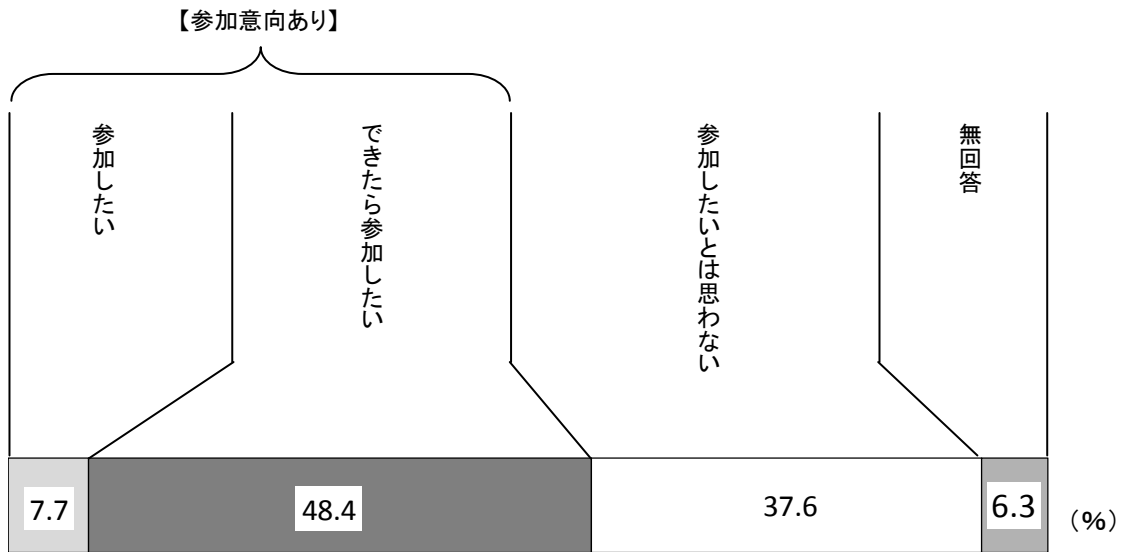
この問いについては、平成 19 年度に設問がなく、平成 24 年度になって設問を新設したため、経年変化の比較対象から除外している。

【今後の参加意向】

【参加実績】で、「特に参加したことがない」とお答えの方にお聞きします。今後、機会があれば参加したいとお考えですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
【参加意向あり】 〔参加したい できたら参加したい〕	・【参加意向あり】が5割を超えている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
【参加意向あり】 〔参加したい できたら参加したい〕	・【参加意向あり】の項目で 10 ポイント以上減少している。

【今後の参加意向についての経年変化】

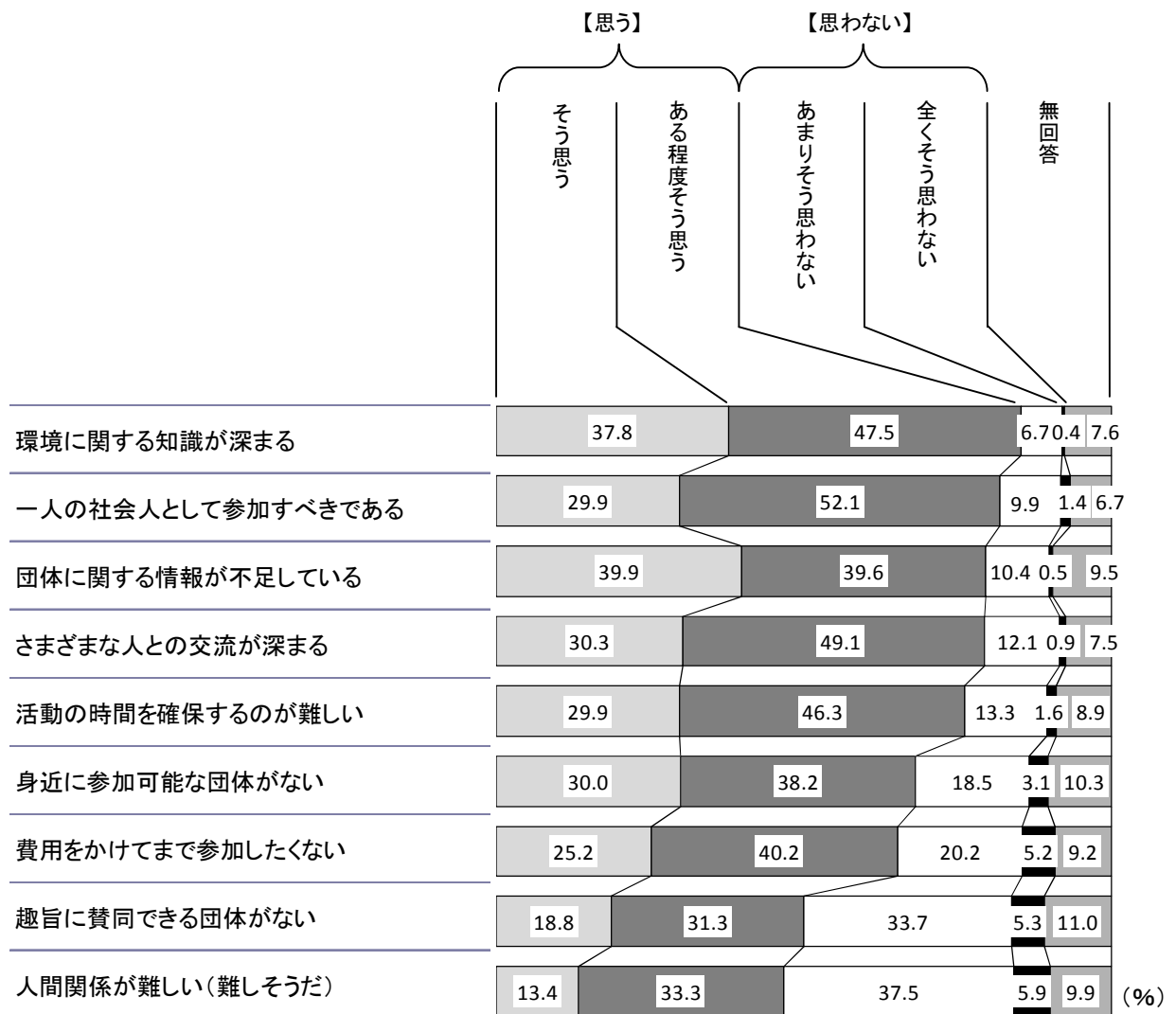
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
【参加意向あり】	68.4	56.1	-12.3 ↓
参加したいとは思わない	30.4	37.6	7.2 ↑
無回答	1.1	6.3	5.2 ↑

【考え】

あなたは、環境保全活動を行う民間団体、またはその活動に参加することについて、どのようにお考えですか？（参加経験の有無にかかわらずお答えください。）

●平成 24 年度

項目	結果の要点
【思う】 [そう思う ある程度そう思う]	・『環境に関する知識が深まる』、『一人の社会人として参加すべきである』、『団体に関する情報が不足している』、『さまざまな人との交流が深まる』、『活動の時間を確保するのが難しい』という項目では、【思う】が7割を超え高くなっている。
【思わない】 [あまりそう思わない 全くそう思わない]	・『趣旨に賛同できる団体がない』、『人間関係が難しい(難しそうだ)』という項目では、【思わない】が約4割と高くなっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
【思う】 (そう思う ある程度そう思う)	・【思う】では、10ポイント以上の差が見られない。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、すべての項目で【思う】が4割以上となっている。
【思わない】 (あまりそう思わない 全くそう思わない)	・【思わない】では、10ポイント以上の差が見られない。

【環境保全行動を行う民間団体に参加することについての経年変化】

項目	思う			思わない		
	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
環境に関する知識が深まる	87.1	85.2	-1.9 ↓	5.4	7.2	1.8 ↑
一人の社会人として参加すべきである	85.4	82.0	-3.4 ↓	8.5	11.3	2.8 ↑
団体に関する情報が不足している	80.8	79.5	-1.3 ↓	9.9	11.0	1.1 ↑
さまざまな人との交流が深まる	82.2	79.4	-2.8 ↓	10.8	13.0	2.2 ↑
活動の時間を確保するのが難しい	79.4	76.2	-3.2 ↓	11.9	14.9	3.0 ↑
身近に参加可能な団体が無い	72.1	68.2	-3.9 ↓	17.6	21.5	3.9 ↑
費用をかけてまで参加したくない	65.3	65.4	0.1 ↑	25.1	25.4	0.3 ↑
趣旨に賛同できる団体が無い	51.7	50.1	-1.6 ↓	35.9	39.0	3.1 ↑
人間関係が難しい(難しそうだ)	47.5	46.7	-0.8 ↓	42.4	43.4	1.0 ↑

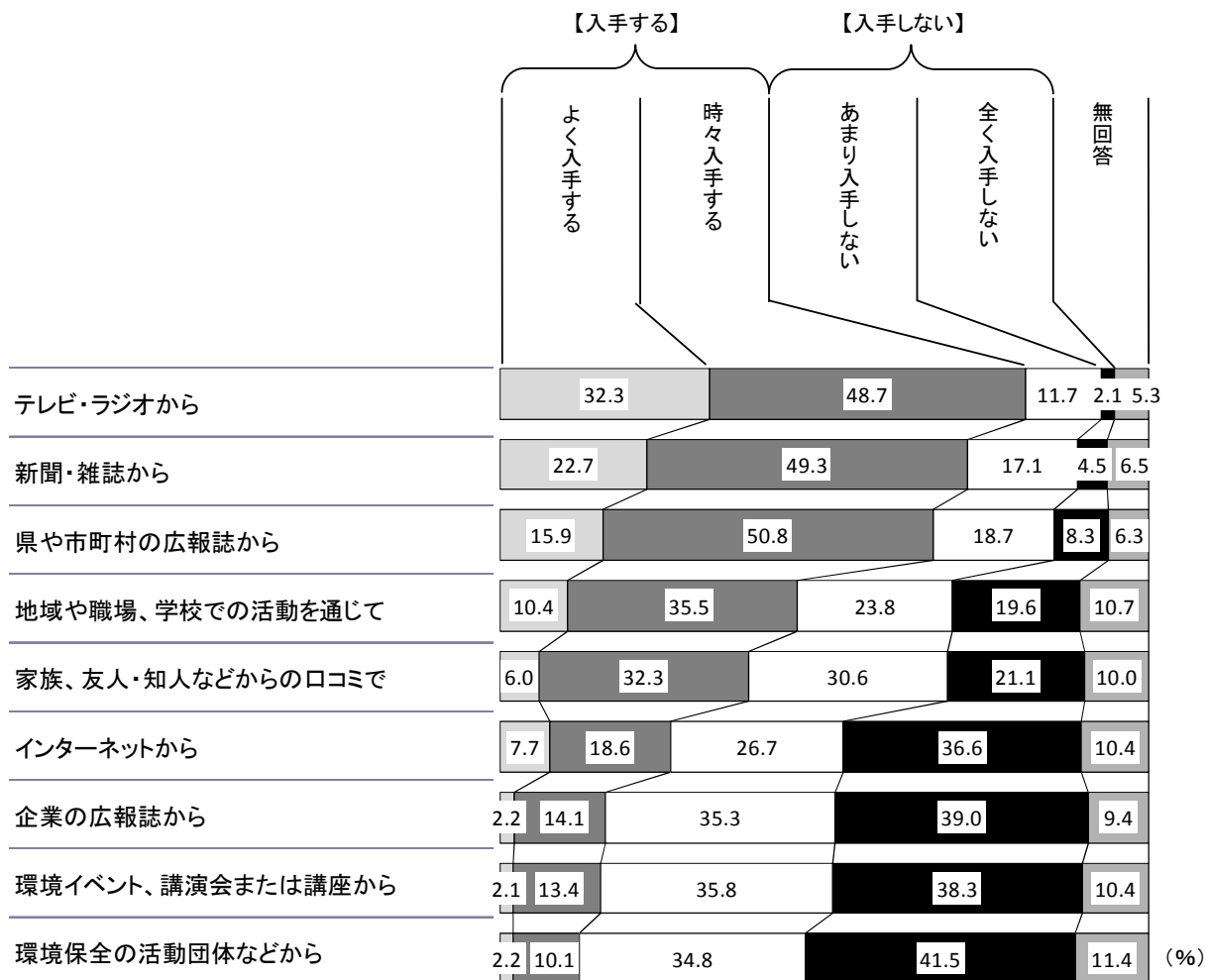
⑧ 環境情報について

【入手程度】

あなたは、環境に関する情報（環境問題に関する知識や環境配慮のための方法など）について、次にあげる方法によって、どの程度入手していますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
【入手する】 （よく入手する 時々入手する）	・『テレビ・ラジオから』、『新聞・雑誌から』、『県や市町村の広報誌から』という項目では、【入手する】が6割を超え高くなっている。
【入手しない】 （あまり入手しない 全く入手しない）	・『環境保全の活動団体などから』、『環境イベント、講演会または講座から』、『企業の広報誌から』、『インターネットから』という項目では、【入手しない】が6割を超え高くなっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
【入手する】 (よく入手する 時々入手する)	<ul style="list-style-type: none"> ・『インターネットから』の項目で、【入手する】が約 10 ポイント増加している。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『テレビ・ラジオから』、『新聞・雑誌から』、『県や市町村の広報誌から』の項目で【入手する】が 6割を超えている。
【入手しない】 (あまり入手しない 全く入手しない)	<ul style="list-style-type: none"> ・『テレビ・ラジオから』、『新聞・雑誌から』の項目で、【入手しない】が5ポイント程度増加している。一方、『インターネットから』の項目では7ポイント減少している。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『環境保全の活動団体などから』、『環境イベント、講演会または講座から』、『企業の広報誌から』、『インターネットから』、『家族、友人・知人などからの口コミで』の項目で、【入手しない】が5割を超えている。

【環境に関する情報の入手方法／入手程度についての経年変化】

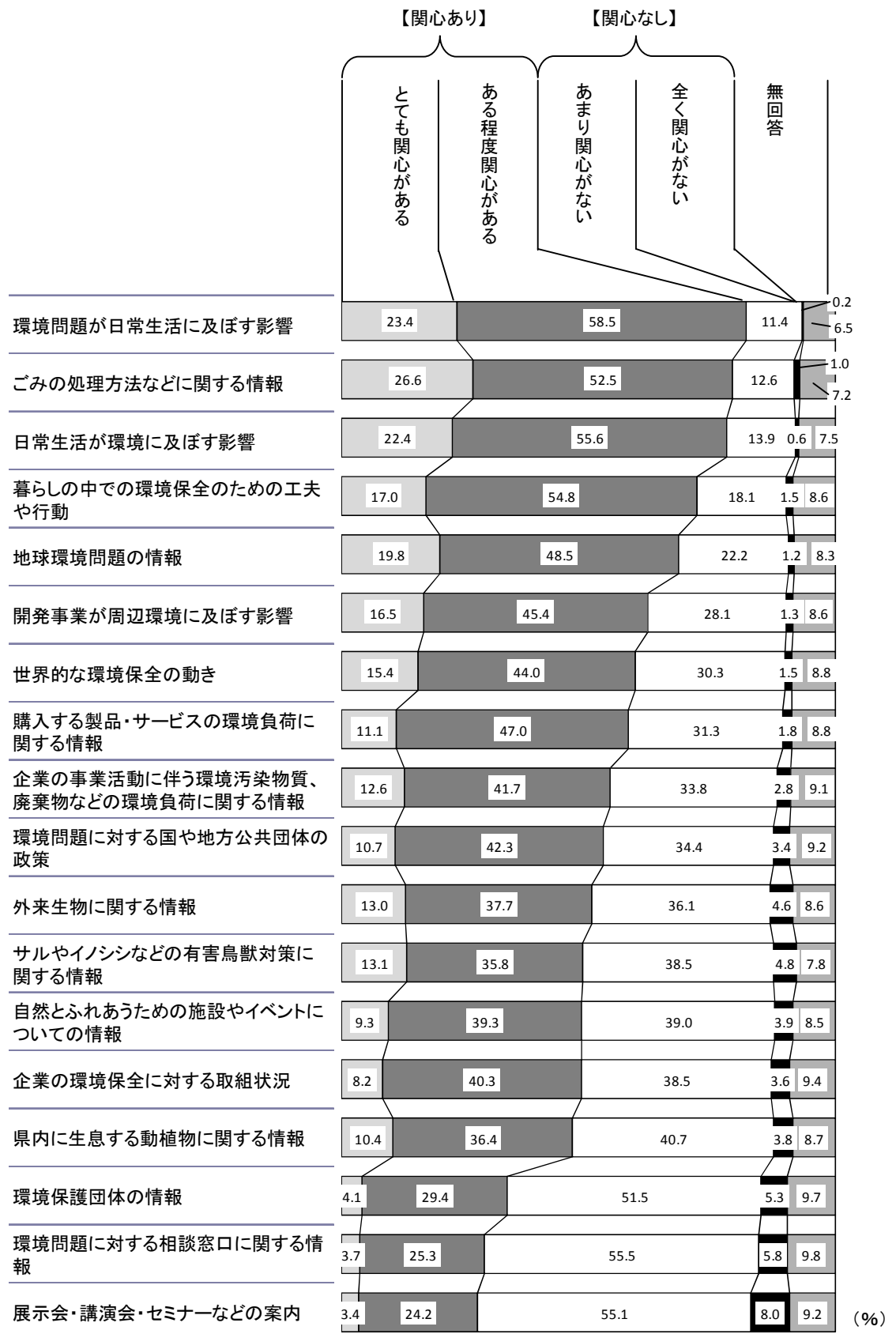
項目	入手する			入手しない		
	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
テレビ・ラジオから	86.4	80.9	-5.5 ↓	8.9	13.8	4.9 ↑
新聞・雑誌から	77.8	72.0	-5.8 ↓	14.6	21.5	6.9 ↑
県や市町村の広報誌から	67.3	66.7	-0.6 ↓	25.4	27.0	1.6 ↑
地域や職場、学校での活動を通じて	43.3	45.9	2.6 ↑	45.7	43.4	-2.3 ↓
家族、友人・知人などからの口コミで	39.9	38.3	-0.1 ↓	50.8	51.7	0.9 ↑
インターネットから	17.6	26.3	8.7 ↑	70.3	63.3	-7.0 ↓
企業の広報誌から	15.0	16.3	1.3 ↑	74.1	74.3	0.2 ↑
環境イベント、講演会または講座から	15.3	15.5	0.2 ↑	72.9	74.1	1.2 ↑
環境保全の活動団体などから	13.7	12.3	-1.4 ↓	75.1	76.3	1.2 ↑

【関心度】

次にあげる環境問題に関する情報について、あなたはどの程度関心がありますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
【関心あり】 〔とても関心がある ある程度関心がある〕	・『環境問題が日常生活に及ぼす影響』、『ごみの処理方法などに関する情報』、『日常生活が環境に及ぼす影響』、『暮らしの中での環境保全のための工夫』という項目では、【関心あり】が7割を超え高くなっている。
【関心なし】 〔あまり関心がない 全く関心がない〕	・『展示会・講演会・セミナーなどの案内』、『環境問題に対する相談窓口に関する情報』、『環境保護団体の情報』という項目では、【関心なし】が5割を超えて高くなっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・新規追加を除く 15 項目中の 2 項目で増加、13 項目で減少している。
【関心あり】 [とても関心がある ある程度関心がある]	<ul style="list-style-type: none"> ・【関心あり】で 10 ポイント以上増加している項目はない。一方、『地球環境問題の情報』、『世界的な環境保全の動き』、『環境問題に対する相談窓口に関する情報』の項目で、【関心あり】が 10 ポイント以上減少している。
【関心なし】 [あまり関心がない 全く関心がない]	<ul style="list-style-type: none"> ・『環境問題に対する相談窓口に関する情報』、『世界的な環境保全の動き』、『地球環境問題の情報』、『企業の事業活動に伴う環境汚染物質、廃棄物などの環境負荷に関する情報』、『環境問題に対する国や地方公共団体の政策』、『環境保護団体の情報』、『企業の環境保全に対する取組状況』の項目で、【関心なし】が 10 ポイント以上増加している。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『展示会・講演会・セミナーなどの案内』の項目で、【関心なし】が 5 割以上になっている。

【環境問題に関する情報に対する関心度についての経年変化】

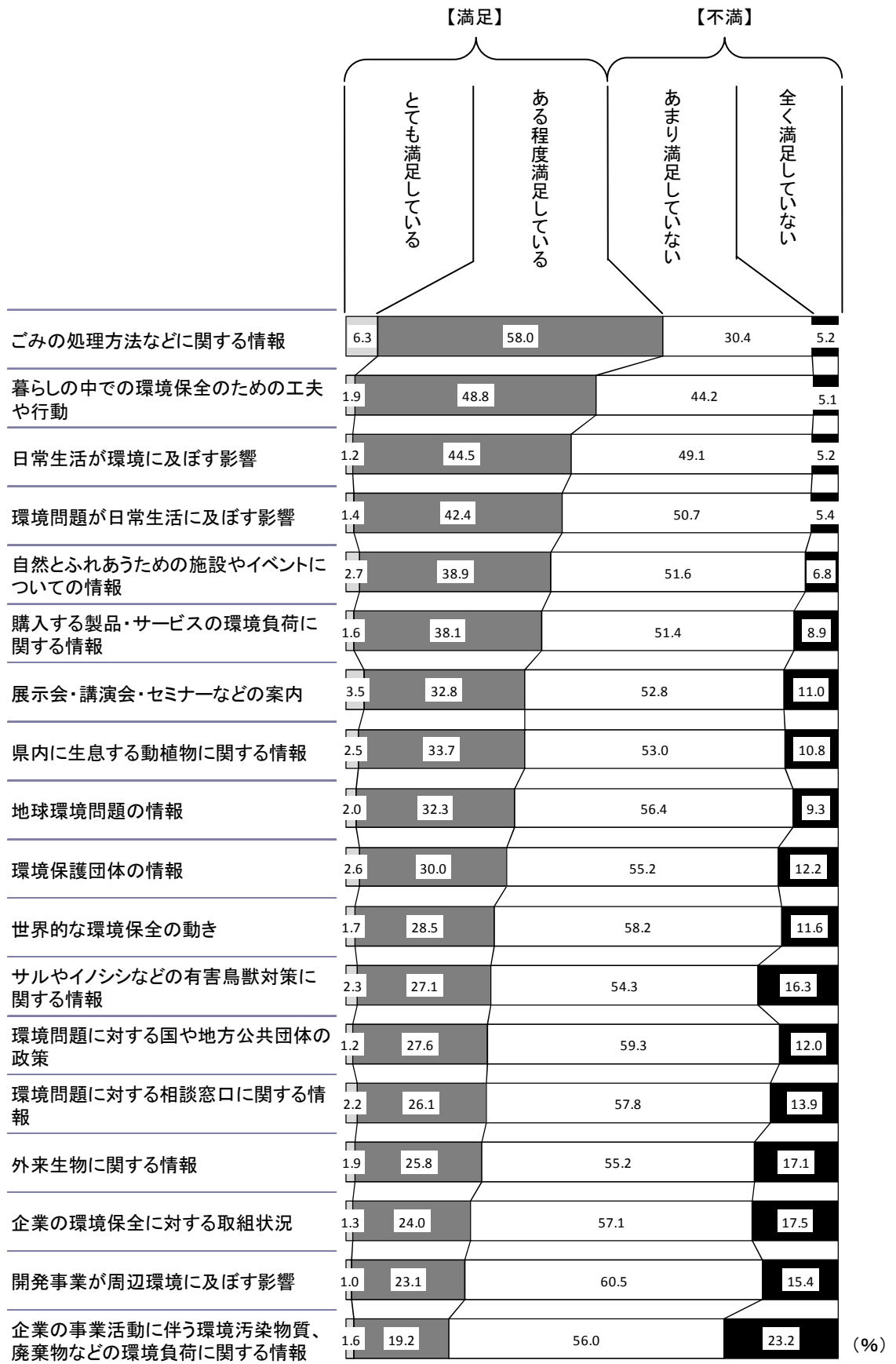
項目	関心あり			関心なし		
	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
環境問題が日常生活に及ぼす影響	81.6	81.9	0.3 ↑	7.7	11.6	3.9 ↑
ごみの処理方法などに関する情報	77.7	79.1	1.4 ↑	11.8	13.6	1.8 ↑
日常生活が環境に及ぼす影響	80.9	77.9	-3.0 ↓	8.4	14.5	6.1 ↑
暮らしの中での環境保全のための工夫や行動	75.1	71.8	-3.3 ↓	13.1	19.6	6.5 ↑
地球環境問題の情報	80.8	68.3	-12.5 ↓	9.7	23.4	13.7 ↑
開発事業が周辺環境に及ぼす影響	65.1	61.9	-3.2 ↓	23.8	29.4	5.6 ↑
世界的な環境保全の動き	71.6	59.4	-12.2 ↓	17.6	31.8	14.2 ↑
購入する製品・サービスの環境負荷に関する情報	65.0	58.1	-6.9 ↓	23.4	33.1	9.7 ↑
企業の事業活動に伴う環境汚染物質、廃棄物などの環境負荷に関する情報	63.9	54.2	-9.7 ↓	24.9	36.7	11.8 ↑
環境問題に対する国や地方公共団体の政策	61.7	53.1	-8.6 ↓	26.3	37.7	11.4 ↑
外来生物に関する情報		50.7	新規追加		40.8	新規追加
サルやイノシシなどの有害鳥獣対策に関する情報		48.9	新規追加		43.3	新規追加
自然とふれあうための施設やイベントについての情報	52.3	48.7	-3.6 ↓	36.4	42.8	6.4 ↑
企業の環境保全に対する取組状況	56.4	48.5	-7.9 ↓	31.8	42.1	10.3 ↑
県内に生息する動植物に関する情報		46.8	新規追加		44.5	新規追加
環境保護団体の情報	41.9	33.5	-8.4 ↓	45.7	56.8	11.1 ↑
環境問題に対する相談窓口に関する情報	52.6	28.9	-23.7 ↓	35.5	61.3	25.8 ↑
展示会・講演会・セミナーなどの案内	31.0	27.6	-3.4 ↓	56.9	63.2	6.3 ↑

【満足度】

「とても関心がある」または「ある程度関心がある」と答えられた方は、得られる情報の量・質にどの程度満足していますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
【満足】 〔とても満足している〕 〔ある程度満足している〕	・『ごみの処理方法などに関する情報』の項目で、【満足】が6割を超え高くなっている。
【不満】 〔あまり満足していない〕 〔全く満足していない〕	・『企業の事業活動に伴う環境汚染物質、廃棄物などの環境負荷に関する情報』、『開発事業が周辺環境に及ぼす影響』、『企業の環境保全に対する取組状況』、『外来生物に関する情報』、『環境問題に対する相談窓口に関する情報』、『環境問題に対する国や地方公共団体の政策』、『サルやイノシシなどの有害鳥獣に関する情報』の項目で、【不満】が7割を超え高くなっている。



(%)

●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・新規追加を除く 15 項目中の 13 項目で増加、2項目で減少している。
<p>【満足】</p> <p>〔 とても満足している ある程度満足している 〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『ごみの処理方法などに関する情報』、『環境問題に対する相談窓口に関する情報』、『暮らしの中での環境保全のための工夫や行動』の項目で、【満足】が 10 ポイント以上増加している。一方、『地球環境問題の情報』の項目で、10 ポイント以上減少している。
<p>【不満】</p> <p>〔 あまり満足していない 全く満足していない 〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『地球環境問題の情報』の項目で、【不満】が 10 ポイント以上増加している。一方、『ごみの処理方法などに関する情報』、『暮らしの中での環境保全のための工夫や行動』、『環境問題に対する相談窓口に関する情報』の項目で、10 ポイント以上減少している。 ・平成 19 年度は、すべての項目で【不満】が5割以上になっている。 ・平成 24 年度では、『暮らしの中での環境保全のための工夫や行動』と『ごみの処理方法などに関する情報』の項目において、平成 19 年度の結果から改善が見られ【不満】が5割を下回っているが、その他の項目では依然として5割を超えている。

【環境問題に関する情報に対する満足度についての経年変化】

項目	満足			不満		
	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
ごみの処理方法などに関する情報	49.6	64.4	14.8 ↑	50.3	35.6	-14.7 ↓
暮らしの中での環境保全のための工夫や行動	40.6	50.7	10.1 ↑	59.5	49.3	-10.2 ↓
日常生活が環境に及ぼす影響	38.8	45.7	6.9 ↑	61.3	54.3	-7.0 ↓
環境問題が日常生活に及ぼす影響	38.5	43.9	5.4 ↑	61.5	56.1	-5.4 ↓
自然とふれあうための施設やイベントについての情報	33.8	41.6	7.8 ↑	66.2	58.4	-7.8 ↓
購入する製品・サービスの環境負荷に関する情報	32.1	39.7	7.6 ↑	67.9	60.3	-7.6 ↓
展示会・講演会・セミナーなどの案内	29.2	36.2	7.0 ↑	70.8	63.8	-7.0 ↓
県内に生息する動植物に関する情報		36.2	新規追加		63.8	新規追加
地球環境問題の情報	45.2	34.3	-10.9 ↓	54.8	65.7	10.9 ↑
環境保護団体の情報	23.1	32.6	9.5 ↑	76.9	67.4	-9.5 ↓
世界的な環境保全の動き	33.5	30.2	-3.3 ↓	66.5	69.8	3.3 ↑
サルやイノシシなどの有害鳥獣対策に関する情報		29.4	新規追加		70.6	新規追加
環境問題に対する国や地方公共団体の政策	21.7	28.7	7.0 ↑	78.3	71.3	-7.0 ↓
環境問題に対する相談窓口に関する情報	17.8	28.3	10.5 ↑	82.2	71.7	-10.5 ↓
外来生物に関する情報		27.6	新規追加		72.4	新規追加
企業の環境保全に対する取組状況	19.0	25.3	6.3 ↑	81.0	74.7	-6.3 ↓
開発事業が周辺環境に及ぼす影響	20.6	24.1	3.5 ↑	81.4	75.9	-5.5 ↓
企業の事業活動に伴う環境汚染物質、廃棄物などの環境負荷に関する情報	14.9	20.8	5.9 ↑	85.1	79.2	-5.9 ↓

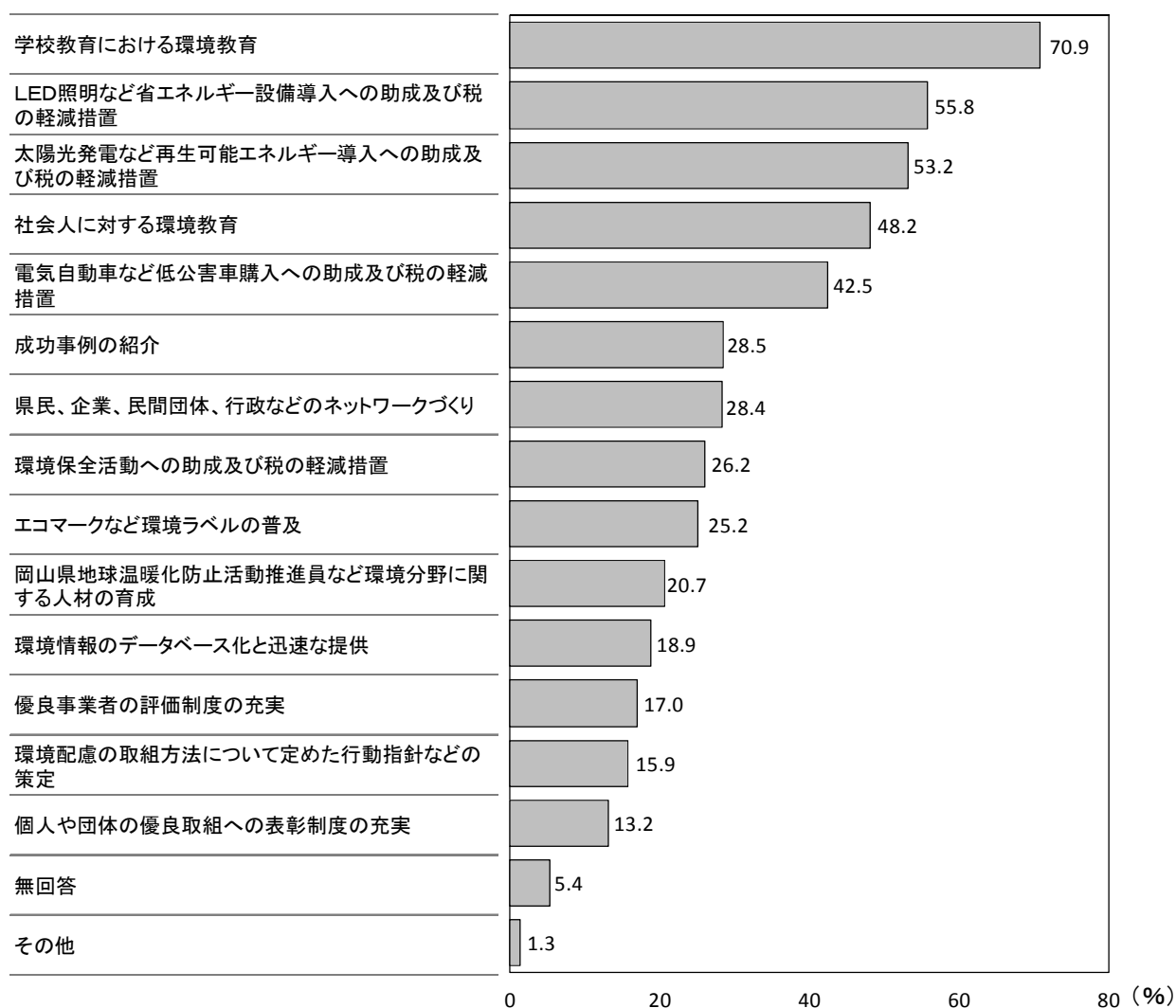
⑨ 行政に期待することについて

一人ひとりの自主的な環境配慮への取組を推進していくためには、行政に対してどのようなことを期待しますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『学校教育における環境教育』が最も高く、『LED照明など省エネルギー設備導入への助成及び税の軽減措置』、『太陽光発電など再生可能エネルギー導入への助成及び税の軽減措置』、『社会人に対する環境教育』、『電気自動車など低公害車購入への助成及び税の軽減措置』が続いている。

(複数回答)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・新規追加を除く 13 項目中の6項目で増加、7項目で減少している。
減少した項目	・『環境情報のデータベース化と迅速な提供*』、『環境配慮の取組方法について定めた行動指針などの策定』の項目で、10 ポイント以上減少している。

※設問項目の変更による影響が原因の 1 つとして考えられる。以下の表に設問の対応を示す。

平成 24 年度と平成 19 年度の設問項目の対応

平成 19 年度の設問項目	平成 24 年度の設問項目
環境情報の整備・提供	環境情報のデータベース化と迅速な提供

【環境配慮への取組を推進するため行政に期待することについての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
学校教育における環境教育	72.4	70.9	-1.5 ↓
LED照明など省エネルギー設備導入への助成及び税の軽減措置		55.8	新規追加
太陽光発電など再生可能エネルギー導入への助成及び税の軽減措置		53.2	新規追加
社会人に対する環境教育	53.9	48.2	-5.7 ↓
電気自動車など低公害車購入への助成及び税の軽減措置	34.9	42.5	7.6 ↑
成功事例の紹介	26.7	28.5	1.8 ↑
県民、企業、民間団体、行政などのネットワークづくり	20.5	28.4	7.9 ↑
環境保全活動への助成及び税の軽減措置	34.3	26.2	-8.1 ↓
エコマークなど環境ラベルの普及	22.1	25.2	3.1 ↑
岡山県地球温暖化防止活動推進員など環境分野に関する人材の育成	28.3	20.7	-7.6 ↓
環境情報のデータベース化と迅速な提供	37.0	18.9	-18.1 ↓
優良事業者の評価制度の充実	12.7	17.0	4.3 ↑
環境配慮の取組方法について定めた行動指針などの策定	29.1	15.9	-13.2 ↓
個人や団体の優良取組への表彰制度の充実	9.8	13.2	3.4 ↑
無回答	8.0	5.4	-2.6 ↓
その他		1.3	新規追加

⑩ 岡山県の将来像について

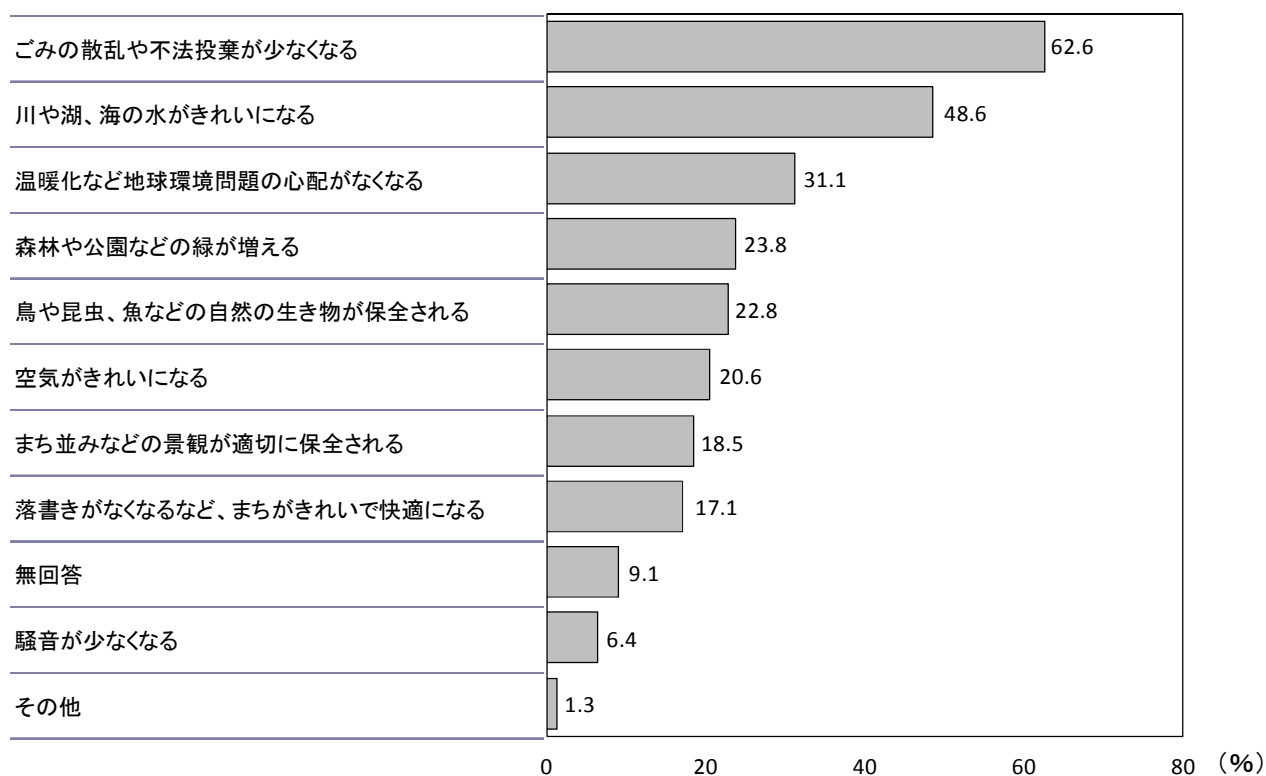
【2020年頃の県の環境】

岡山県では、2020年度を目標に環境基本計画を策定し、各種施策に取り組んでいます。あなたは、2020年頃の県の環境はどのようにあるべきだとお考えですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『ごみの散乱や不法投棄が少なくなる』という項目が約6割で最も高く、次いで『川や湖、海の水がきれいになる』の項目が続いている。

(複数回答:3つまで)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・新規追加を除く 10 項目中の 4 項目で増加、6 項目で減少している
増加した項目	・『まち並みなどの景観が適切に保全される』の項目が、他の項目に比べて大きく増加している。

【2020年頃の環境はどのようにあるべきかについての経年変化】

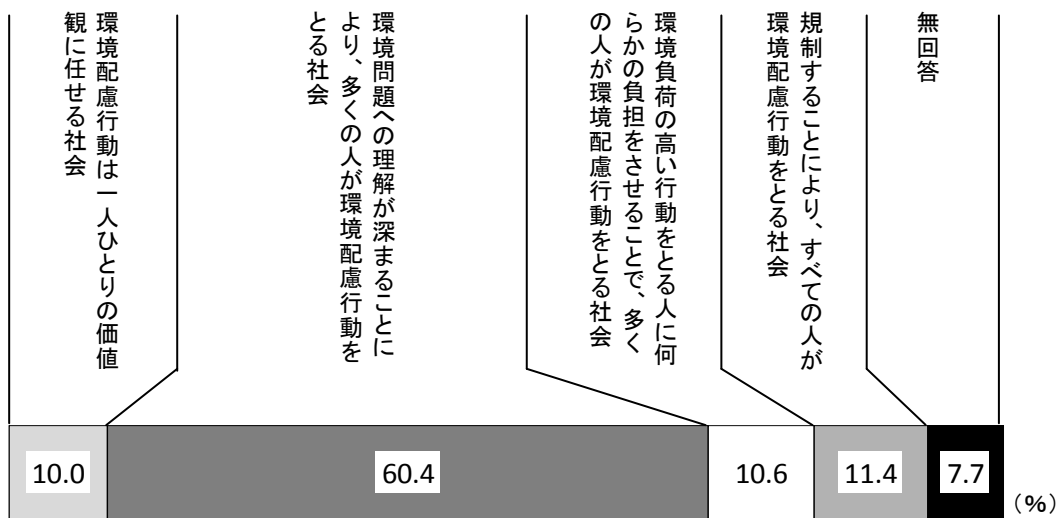
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
ごみの散乱や不法投棄が少なくなる	60.4	62.6	2.2 ↑
川や湖、海の水がきれいになる	54.1	48.6	-5.5 ↓
温暖化など地球環境問題の心配がなくなる	36.0	31.1	-4.9 ↓
森林や公園などの緑が増える	26.9	23.8	-3.1 ↓
鳥や昆虫、魚などの自然の生き物が保全される	23.7	22.8	-0.9 ↓
空気がきれいになる	27.5	20.6	-6.9 ↓
まち並みなどの景観が適切に保全される	13.5	18.5	5.0 ↑
落書きがなくなるなど、まちがきれいで快適になる	19.8	17.1	-2.7 ↓
無回答	6.1	9.1	3.0 ↑
騒音が少なくなる	5.9	6.4	0.5 ↑
その他		1.3	新規追加

【環境配慮社会のあり方】

環境配慮に関して社会はどのようにあるべきだとお考えですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『環境問題への理解が深まることにより、多くの人が環境配慮行動をとる社会』が約6割で最も高い割合となっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・5項目中の3項目で増加、2項目で減少している。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『環境問題への理解が深まることにより、多くの人が環境配慮行動をとる社会』の項目で5割を超えている。

【環境配慮に関する社会はどのようにあるべきかについての経年変化】

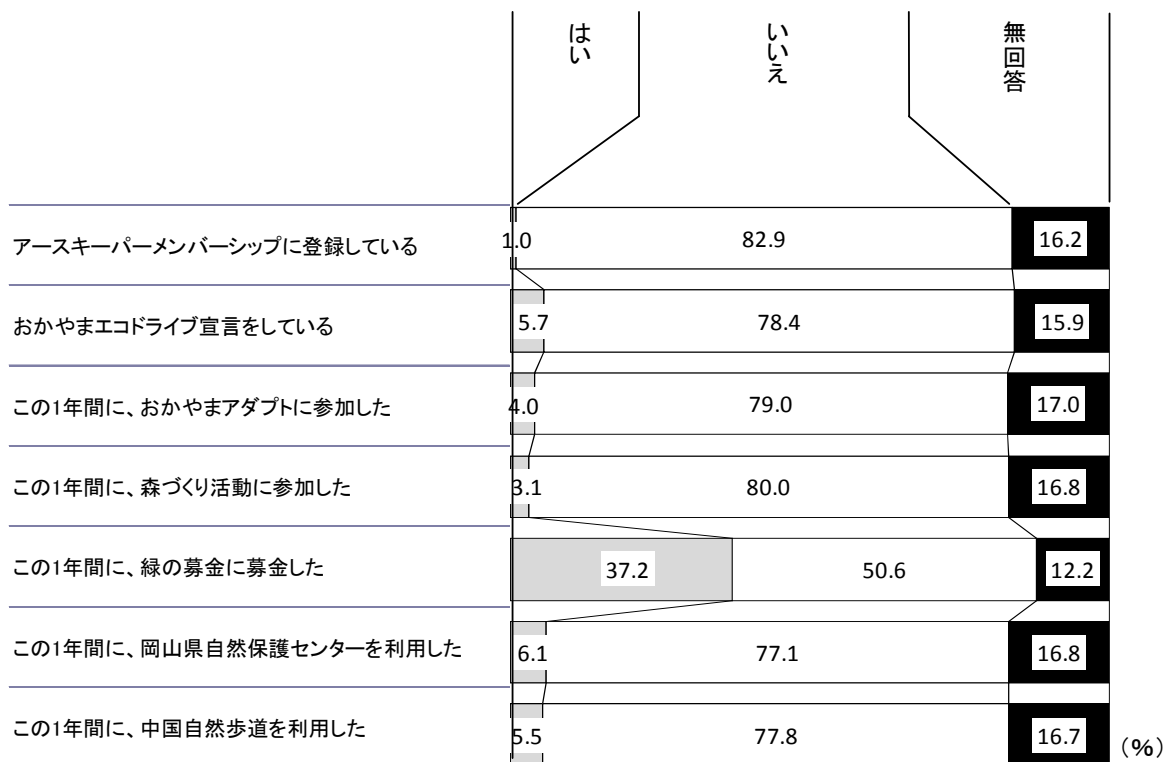
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
環境配慮行動は一人ひとりの価値観に任せる社会	4.8	10.0	5.2 ↑
環境問題への理解が深まることにより、多くの人が環境配慮行動をとる社会	57.6	60.4	2.8 ↑
環境負荷の高い行動をとる人に何らかの負担をさせることで、多くの人が環境配慮行動をとる社会	15.2	10.6	-4.6 ↓
規制することにより、すべての人が環境配慮行動をとる社会	15.5	11.4	-4.1 ↓
無回答	6.9	7.7	0.8 ↑

【岡山県が進めている取組の認知度】

岡山県が進めている次の取組を認知していますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『この1年間に、緑の募金に募金した』の項目では、「はい」と回答された方が約4割で、最も多くなっている。一方、すべての回答で「いいえ」が5割を超えている。

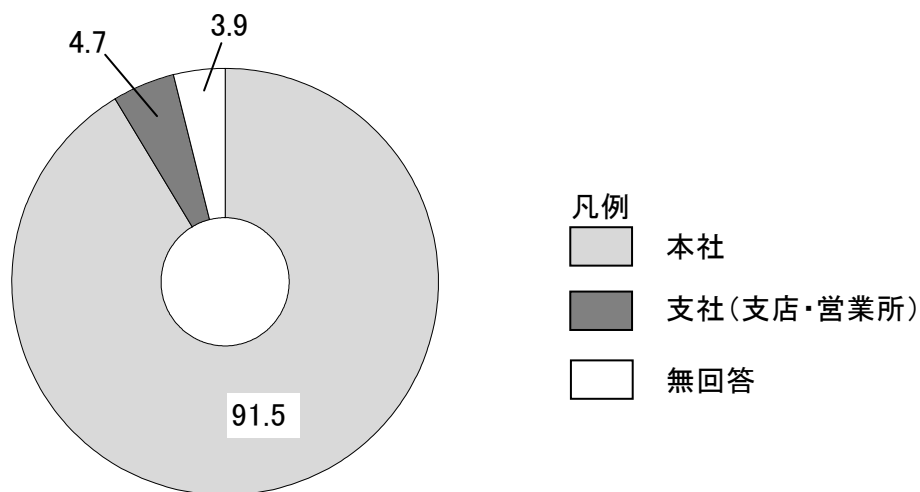


この問いについては、平成 19 年度に設問がなく、平成 24 年度になって設問を新設したため、経年変化の比較対象から除外している。

4 事業所調査

(1) 回答者属性

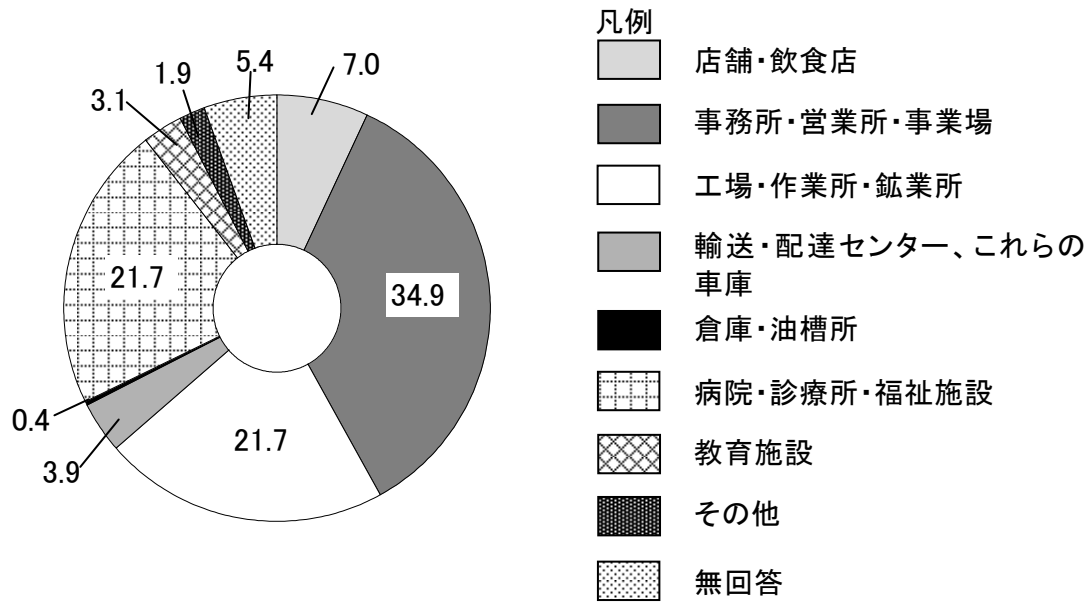
【本社／支社(支店・営業所)区分】



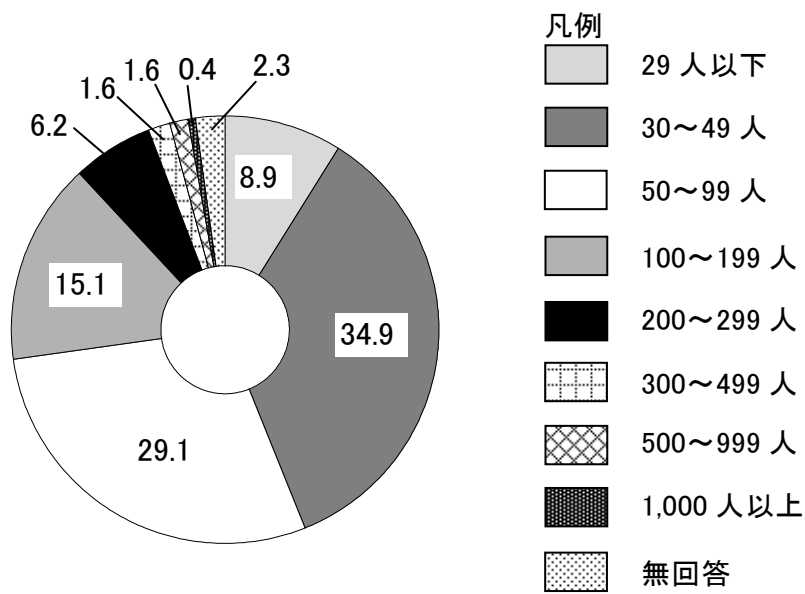
【業種】

区分	回答数	構成割合 (%)
農林水産業	2	0.8
鉱業、採石業、砂利採取業	1	0.4
建設業	18	7.0
製造業	58	22.5
電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.4
情報通信業	5	1.9
運輸業、郵便業	16	6.2
卸売業、小売業	31	12.0
金融業、保険業	3	1.2
不動産業、物品賃貸業	0	0.0
学術研究、専門・技術サービス業	3	1.2
宿泊業、飲食サービス業	1	0.4
生活関連サービス業、娯楽業	5	1.9
教育・学習支援業	6	2.3
医療、福祉	56	21.7
サービス業	24	9.3
公務	0	0.0
その他	19	7.4
無回答	9	3.5
計	258	100.0

【事業所の主な形態】



【従業員数(パートの人数を含む)】



(2) 調査結果

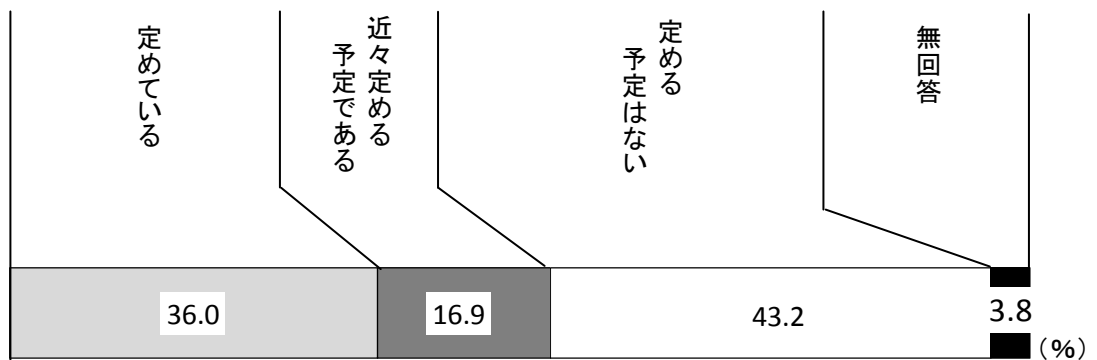
① 環境保全への取組等について

【経営方針における環境保全に関する項目の設定の有無】

貴事業所では、経営方針の中に環境保全に関する項目を定めていますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『定めている』という項目が、『定める予定はない』という項目を下回っている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・『定める予定はない』の項目では 12.1 ポイント増加しており、『定めている』の項目では 10.7 ポイント減少している。

【経営方針における環境保全に関する項目の設定の有無についての経年変化】

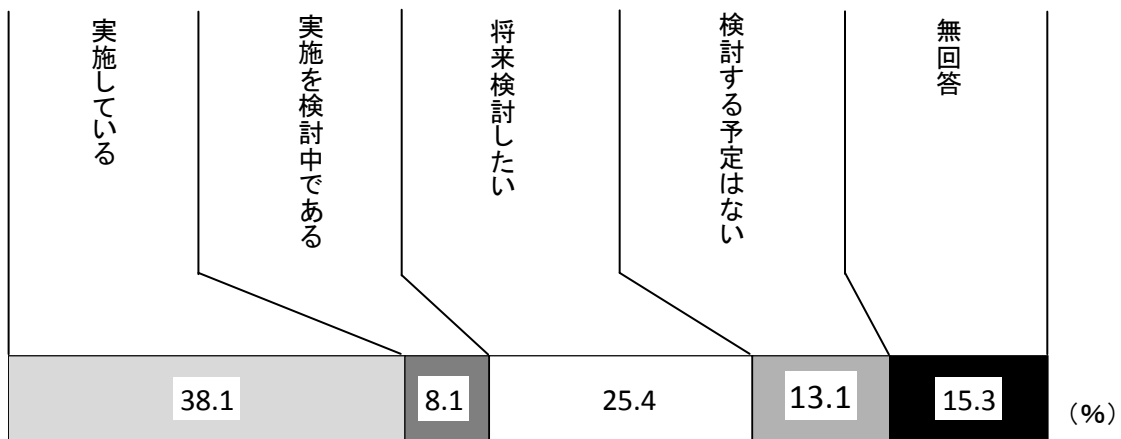
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	
定めている	46.7	36.0	-10.7	↓
近々定める予定である	19.1	16.9	-2.2	↓
定める予定はない	31.1	43.2	12.1	↑
無回答	3.1	3.8	0.7	↑

【環境保全に関する具体的な行動方針の設定と対策の実施】

貴事業所では、環境保全に関する具体的な行動方針を定め、何らかの対策を実施していますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『実施している』という項目が最も高く、次いで『将来検討したい』という項目となっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・『無回答』の項目では、10 ポイント近く増加している。『実施している』という項目では、13.3 ポイント減少している。

【環境保全に関する具体的な行動方針の設定と対策の実施についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
実施している	51.4	38.1	-13.3 ↓
実施を検討中である	7.0	8.1	1.1 ↑
将来検討したい	22.6	25.4	2.8 ↑
検討する予定はない	11.7	13.1	1.4 ↑
無回答	7.4	15.3	7.9 ↑

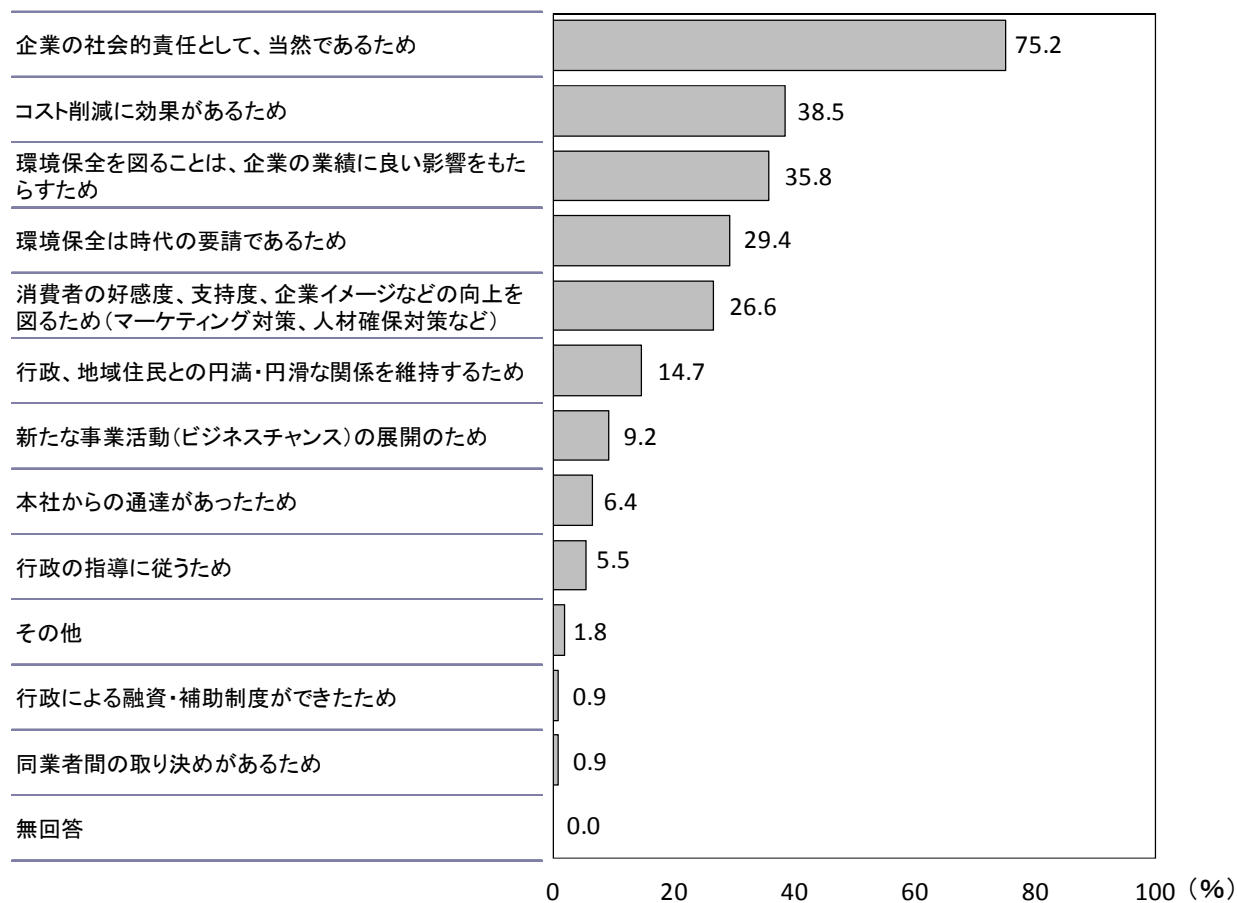
【環境保全対策の目的や動機】

環境保全対策などの目的や動機について、貴事業所のお考えに近いものはどれですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『企業の社会的責任として、当然であるため』という項目が7割を超え高くなっている。

(複数回答:3つまで)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・新規追加を除く 12 項目中の 4 項目で増加、8 項目で減少している。
増加した項目	・『コスト削減に効果があるため』が、10 ポイント以上増加している。
減少した項目	・『企業の社会的責任として、当然であるため』が、10 ポイント以上減少している。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『企業の社会的責任として、当然であるため』の項目が 7 割を超えている。

【環境保全対策の目的や動機についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
企業の社会的責任として、当然であるため	85.3	75.2	-10.1 ↓
コスト削減に効果があるため	26.7	38.5	11.8 ↑
環境保全を図ることは、企業の業績に良い影響をもたらすため	34.0	35.8	1.8 ↑
環境保全は時代の要請であるため	33.3	29.4	-3.9 ↓
消費者の好感度、支持度、企業イメージなどの向上を図るため(マーケティング対策、人材確保対策など)	33.3	26.6	-6.7 ↓
行政、地域住民との円満・円滑な関係を維持するため	19.3	14.7	-4.6 ↓
新たな事業活動(ビジネスチャンス)の展開のため	3.3	9.2	5.9 ↑
本社からの通達があったため	10.0	6.4	-3.6 ↓
行政の指導に従うため	6.0	5.5	-0.5 ↓
その他	4.0	1.8	-2.2 ↓
行政による融資・補助制度ができたため	0.0	0.9	0.9 ↑
同業者間の取り決めがあるため	1.3	0.9	-0.4 ↓
無回答		0.0	新規追加

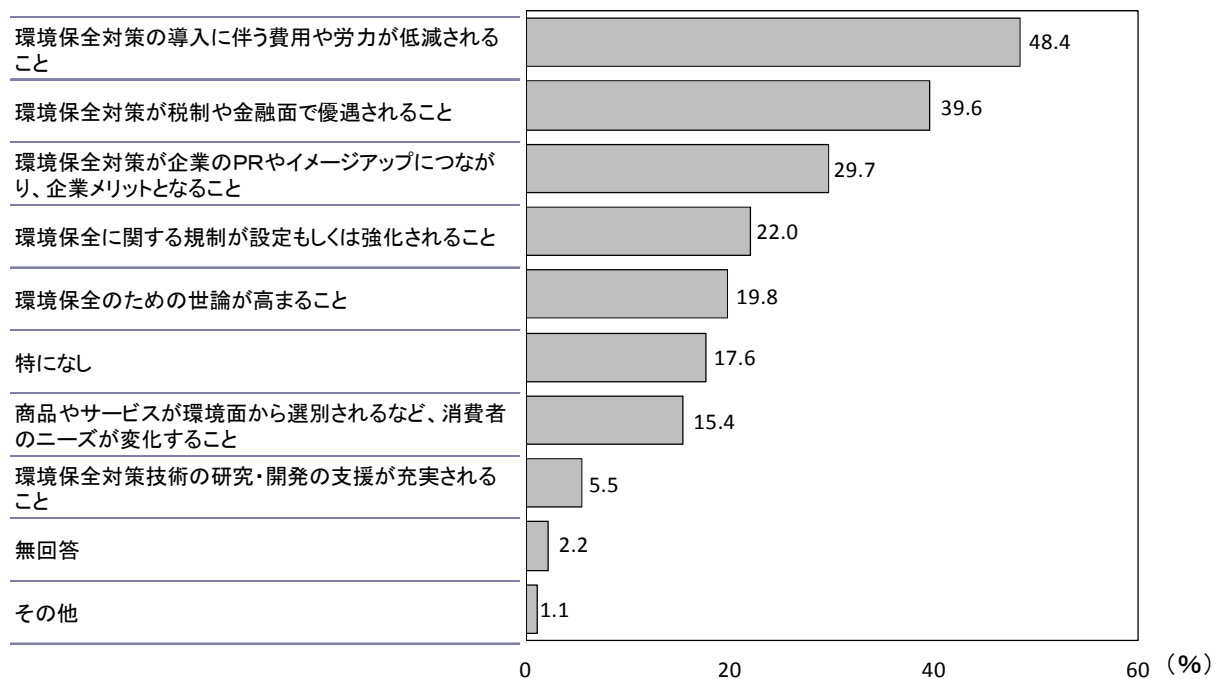
【積極的に環境保全対策を進めるための条件】

貴事業所にとって、どのような条件が整えば、現在より積極的に環境保全対策を進めることができますか？

●平成24年度

項目	結果の要点
全体	・『環境保全対策の導入に伴う費用や労力が低減されること』という項目が最も高く、次いで『環境保全対策が税制や金融面で優遇されること』という項目の順になっている。

(複数回答:3つまで)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・10 項目中の2項目で増加、8項目で減少している。
増加した項目	・『特になし』という項目が、10 ポイント以上増加している。
減少した項目	・『環境保全に関する規制が設定もしくは強化されること』、『商品やサービスが環境面から選別されるなど、消費者のニーズが変化すること』という項目で、10 ポイント以上減少している。

【積極的に環境保全対策を進めるための条件についての経年変化】

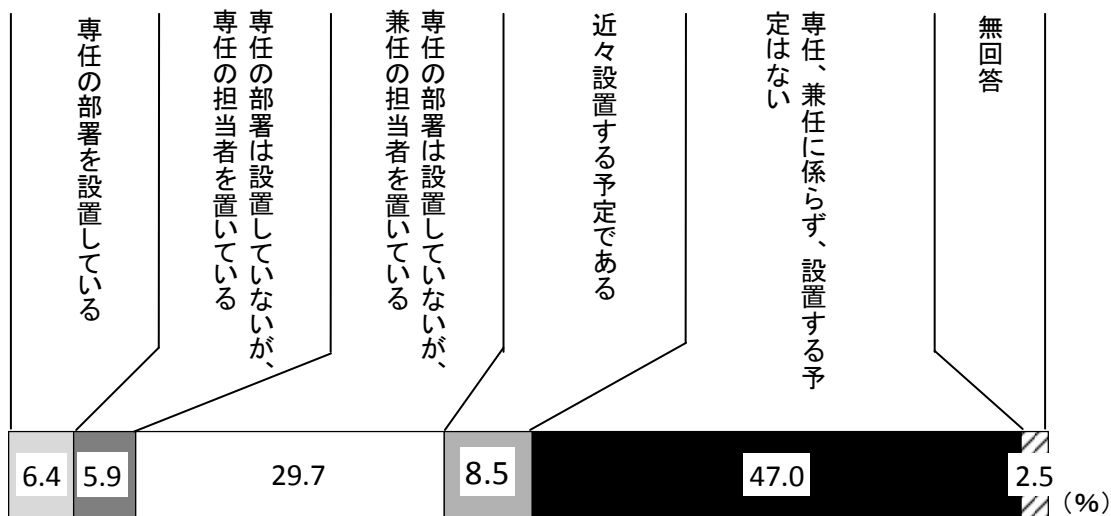
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
環境保全対策の導入に伴う費用や労力が低減されること	44.3	48.4	4.1 ↑
環境保全対策が税制や金融面で優遇されること	42.0	39.6	-2.4 ↓
環境保全対策が企業のPRやイメージアップにつながり、企業メリットとなること	30.7	29.7	-1.0 ↓
環境保全に関する規制が設定もしくは強化されること	43.2	22.0	-21.2 ↓
環境保全のための世論が高まること	22.7	19.8	-2.9 ↓
特になし	5.7	17.6	11.9 ↑
商品やサービスが環境面から選別されるなど、消費者のニーズが変化すること	26.1	15.4	-10.7 ↓
環境保全対策技術の研究・開発の支援が充実されること	6.8	5.5	-1.3 ↓
無回答	3.4	2.2	-1.2 ↓
その他	1.1	1.1	0.0 ↓

【環境保全に配慮するための部署等の有無】

貴事業所では、環境保全に配慮するための部署などがありますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『専任、兼任に係らず、設置する予定はない』という項目が約5割で、最も高い割合になっている。次いで、『専任の部署は設置していないが、兼任の担当者を置いている』という項目が約3割と、2番目に高くなっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・6項目中の3項目で増加、3項目で減少している。
増加した項目	・『専任、兼任に係らず、設置する予定はない』という項目が10ポイント以上増加している。
減少した項目	・『専任の部署は設置していないが、兼任の担当者を置いている』という項目が10ポイント以上減少している。

【環境保全に配慮するための部署等の有無についての経年変化】

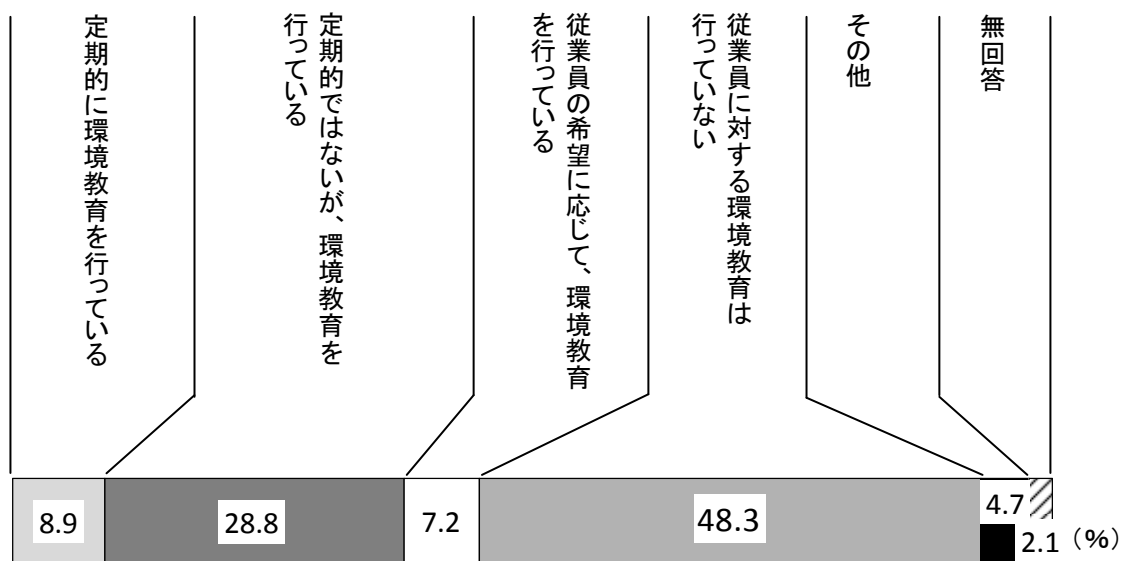
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	
専任の部署を設置している	10.9	6.4	-4.5	↓
専任の部署は設置していないが、専任の担当者を置いている	5.1	5.9	0.8	↑
専任の部署は設置していないが、兼任の担当者を置いている	40.5	29.7	-10.8	↓
近々設置する予定である	7.4	8.5	1.1	↑
専任、兼任に係らず、設置する予定はない	33.5	47.0	13.5	↑
無回答	2.7	2.5	-0.2	↓

【従業員に対する環境教育の形態】

貴事業所では、従業員に対してどのような形で環境教育を行っていますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『従業員に対する環境教育は行っていない』という項目が約5割で、最も高い割合になっている。次いで『定期的ではないが、環境教育を行っている』という項目が約3割で、2番目に高い割合になっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・6項目中の4項目で増加、2項目で減少している。
増加した項目	・『従業員に対する環境教育は行っていない』という項目が約8ポイント増加している。
減少した項目	・『定期的に環境教育を行っている』という項目が 10 ポイント以上減少している。 ・減少した2項目は、いずれも事業所の側から環境教育を行っている項目であった。

【従業員に対する環境教育の形態についての経年変化】

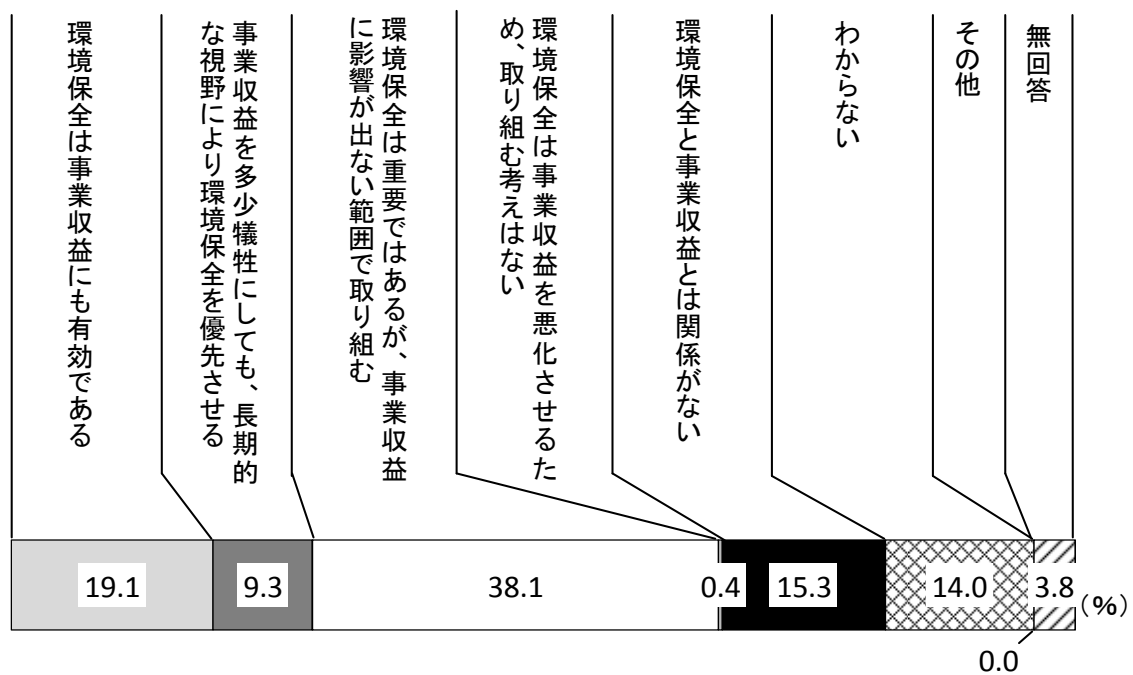
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
定期的に環境教育を行っている	19.8	8.9	-10.9 ↓
定期的ではないが、環境教育を行っている	31.9	28.8	-3.1 ↓
従業員の希望に応じて、環境教育を行っている	3.1	7.2	4.1 ↑
従業員に対する環境教育は行っていない	40.5	48.3	7.8 ↑
その他	2.7	4.7	2.0 ↑
無回答	1.9	2.1	0.2 ↑

【環境保全への取組と事業収益との関係】

環境保全への取組と事業収益との関係について、どのようにお考えですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『環境保全は重要ではあるが、事業収益に影響が出ない範囲で取り組む』という項目が約4割と最も高い割合になっている。次いで、『環境保全は事業収益にも有効である』、『環境保全と事業収益とは関係がない』、『わからない』という項目の順になっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・新規追加を除く、7項目中の5項目で増加、2項目で減少している。
増加した項目	・増加した項目では、あまり差が見られない。
減少した項目	・『事業収益を多少犠牲にしても、長期的な視野により環境保全を優先させる』という項目が、10ポイント近く減少している。

【環境保全への取組と事業収益との関係についての経年変化】

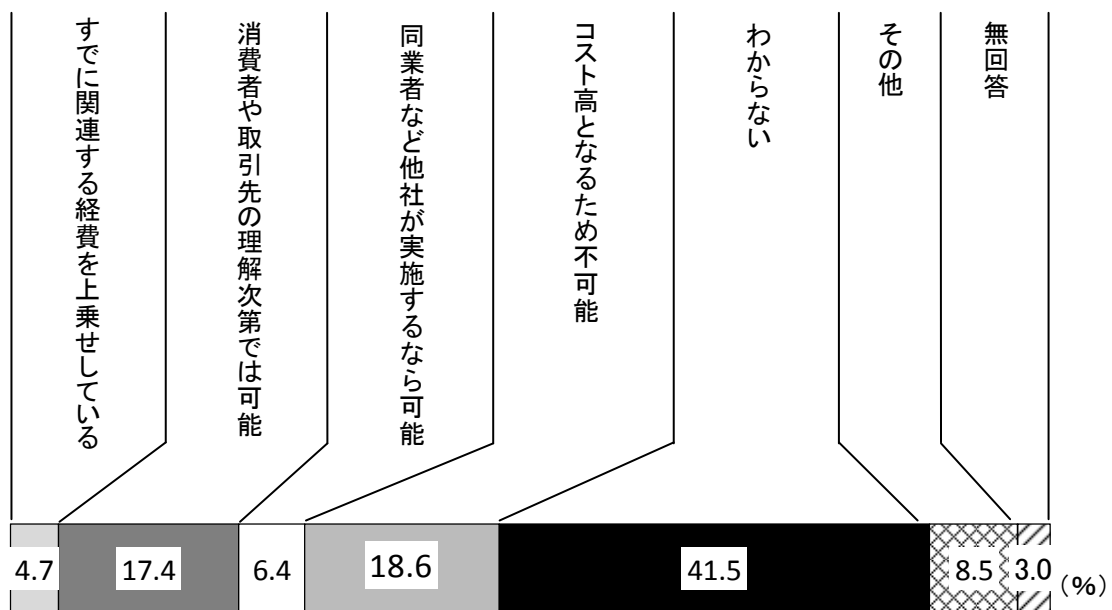
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	
環境保全は事業収益にも有効である	23.3	19.1	-4.2	↓
事業収益を多少犠牲にしても、長期的な視野により環境保全を優先させる	18.7	9.3	-9.4	↓
環境保全は重要ではあるが、事業収益に影響が出ない範囲で取り組む	34.2	38.1	3.9	↑
環境保全は事業収益を悪化させるため、取り組む考えはない	0.0	0.4	0.4	↑
環境保全と事業収益とは関係がない	11.7	15.3	3.6	↑
わからない	9.7	14.0	4.3	↑
その他		0.0	新規追加	
無回答	2.3	3.8	1.5	↑

【製品やサービスの価格に、環境対策上の経費やリサイクルに要する経費などを含めての販売の可能性】

貴事業所の製品やサービスの価格に、環境保全対策上の経費やリサイクルに要する経費などを含めて販売することは可能ですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『わからない』という項目が約4割で最も高い割合となっている。次いで『コスト高となるため不可能』、『消費者や取引先の理解次第では可能』という項目の順になっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・新規追加を除く6項目中の2項目で増加、4項目で減少している。
増加した項目	・『わからない』という項目が、10 ポイント近く増加している。
減少した項目	・『消費者や取引先の理解次第では可能』という項目が、10 ポイント近く減少している。

【製品やサービスの価格に、環境対策上の経費やリサイクルに要する経費などを含めての販売の可能性についての経年変化】

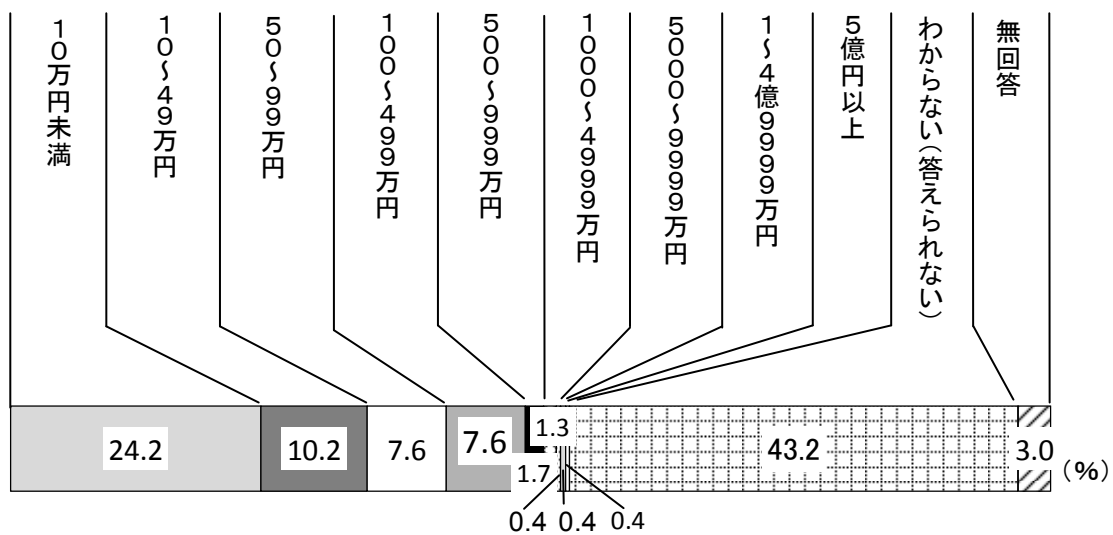
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
すでに関連する経費を上乗せしている	3.5	4.7	1.2 ↑
消費者や取引先の理解次第では可能	26.5	17.4	-9.1 ↓
同業者など他社が実施するなら可能	10.5	6.4	-4.1 ↓
コスト高となるため不可能	19.1	18.6	-0.5 ↓
わからない	34.6	41.5	6.9 ↑
その他		8.5	新規追加
無回答	5.8	3.0	-2.8 ↓

【年間の環境保全対策費】

貴事業所の現在の環境保全対策費(廃棄物の処理費用を除く)は年間でおよそどの程度ですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『わからない(答えられない)』という項目が約4割と最も高い割合になっている。次いで、『10万円未満』、『10～49万円』という項目の順になっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・新規追加を除く8項目中1項目で増加、7項目で減少している。
増加した項目	・『わからない(答えられない)』という項目で、10ポイント以上増加している。
減少した項目	・『100～499万円』という項目で、10ポイント近く減少している。

※前回の調査では、100万円未満をさらに区分していない。

【年間の環境保全対策費についての経年変化】

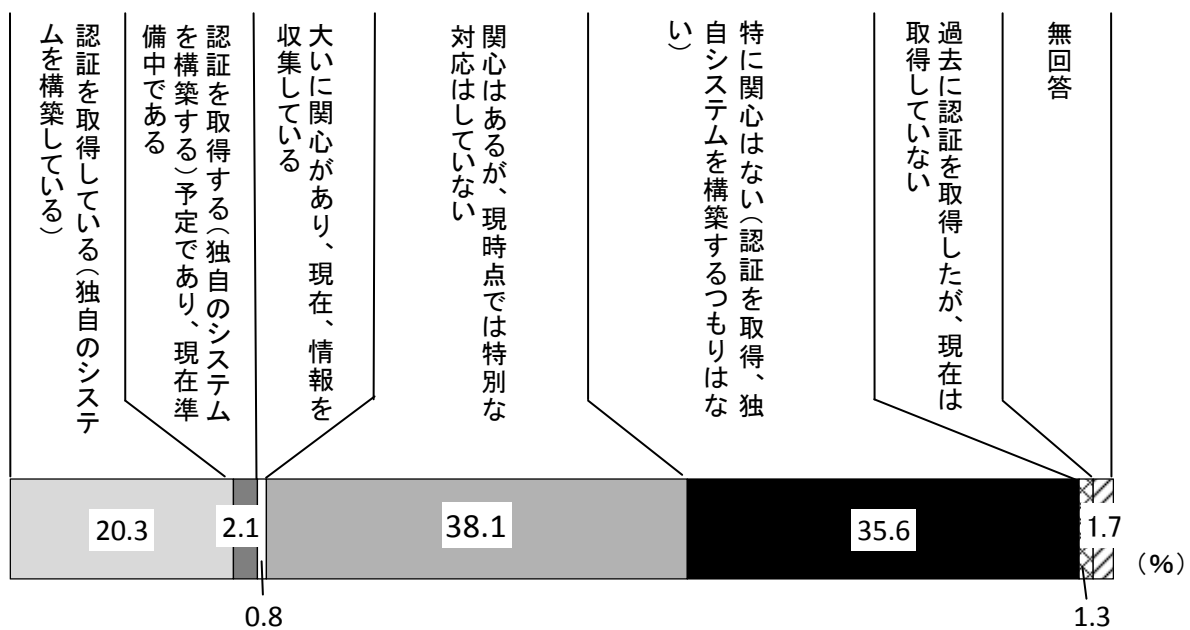
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
100万円未満	44.7	41.9	-2.8 ↓
100～499万円	14.8	7.6	-7.2 ↓
500～999万円	2.7	1.7	-1.0 ↓
1,000～4,999万円	1.6	1.3	-0.3 ↓
5,000～9,999万円		0.4	新規追加
1～4億9,999万円	1.2	0.4	-0.8 ↓
5億円以上	0.8	0.4	-0.4 ↓
わからない(答えられない)	29.6	43.2	13.6 ↑
無回答	4.7	3.0	-1.7 ↓

【ISO14001やエコアクション21の認証についての取組】

環境マネジメントシステム(ISO14001やエコアクション21など)について、貴事業所はどのように取り組まれていますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『関心はあるが、現時点では特別な対応はしていない』、『特に関心はない(認証を取得、独自システムを構築するつもりはない)』という項目が約4割と高くなっている。



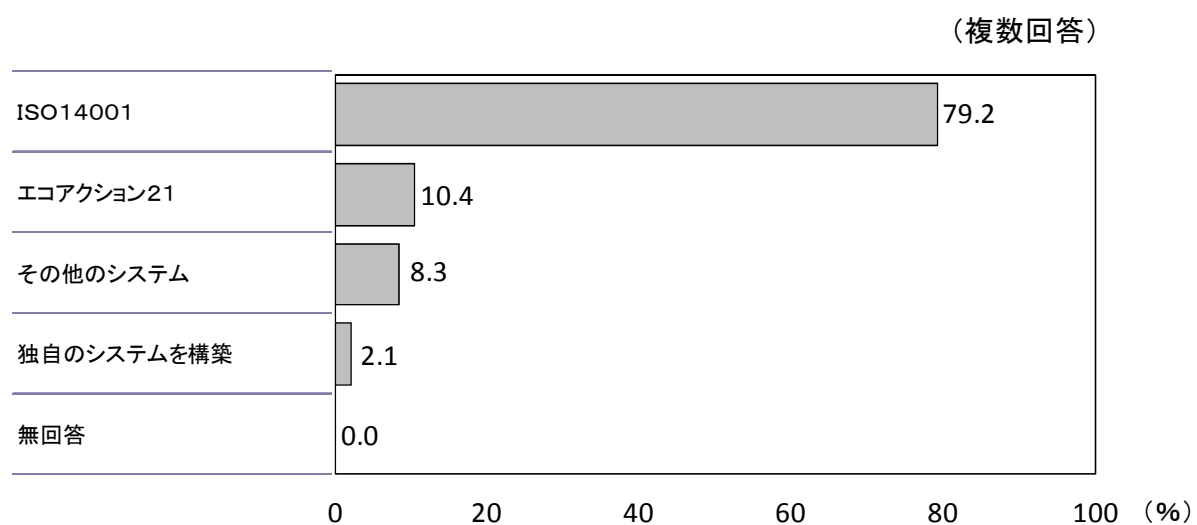
この問いについては、平成 19 年度に設問がなく、平成 24 年度になって設問を新設したため、経年変化の比較対象から除外している。

【環境マネジメントシステムの形態について】

貴事業所での、環境マネジメントシステムはどのような形態ですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『ISO14001』という項目が約8割と最も高い割合になっている。



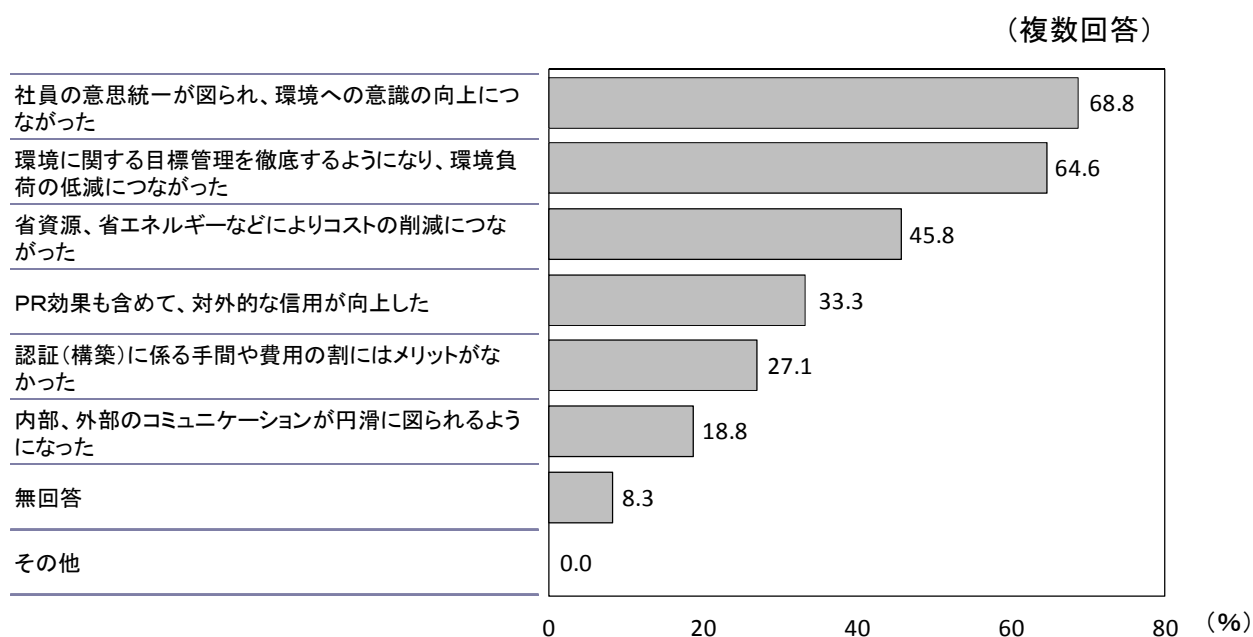
この問いについては、平成 19 年度に設問がなく、平成 24 年度になって設問を新設したため、経年変化の比較対象から除外している。

【認証取得による効果】

貴事業所では、認証の取得(独自システムの構築)によりどのような効果がありましたか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『社員の意思統一が図られ、環境への意識の向上につながった』、『環境に関する目標管理を徹底するようになり、環境負荷の低減につながった』という項目が6割を超えている。



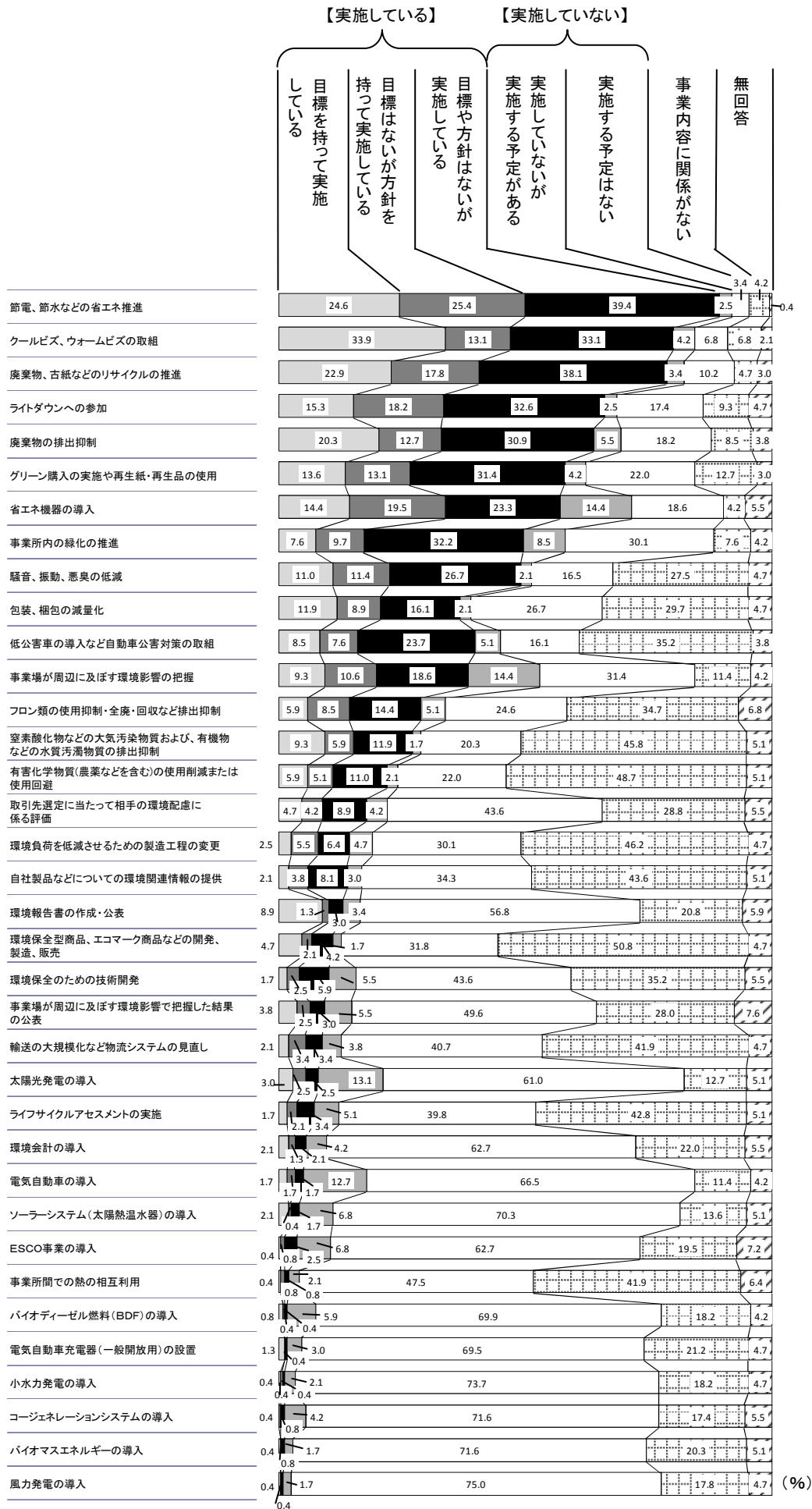
この問いについては、平成 19 年度に設問がなく、平成 24 年度になって設問を新設したため、経年変化の比較対象から除外している。

【企業活動と環境保全の関係】

貴事業所では、次にあげる環境への配慮に関する項目について、どれにあてはまりますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
<p>【実施している】</p> <p>〔 目標を持って実施している 目標はないが 方針を持って実施している 目標や方針はないが実施している 〕</p>	<p>・『節電、節水などの省エネ推進』、『クールビズ、ウォームビズの実施』、『廃棄物、古紙などのリサイクルの推進』などの項目では、【実施している】が7割を超えて高くなっている。</p>
<p>【実施していない】</p> <p>〔 実施していないが 実施する予定がある 実施する予定はない 〕</p>	<p>・『風力発電の導入』、『バイオマスエネルギーの導入』、『コージェネレーションシステムの導入』、『小水力発電の導入』、『バイオディーゼル燃料(BDF)の導入』、『電気自動車充電器(一般開放用)』などの9項目では、【実施していない】が7割を超えて高くなっている。</p>



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
<p>【実施している】</p> <p>目標を持って実施している 目標はないが 方針を持って実施している 目標や方針はないが実施している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『低公害車の導入など自動車公害対策の取組[※]』の項目で、【実施している】が 10 ポイント以上増加している。一方、『廃棄物の排出抑制』、『窒素酸化物などの大気汚染物質および、有機物などの水質汚濁物質の排出抑制』、『有害化学物質(農薬などを含む)の使用削減または使用回避』、『輸送の大規模化など物流システムの見直し』の項目では、10 ポイント以上減少している。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『クールビズ、ウォームビズの取組[※]』、『節電、節水などの省エネ推進』、『廃棄物、古紙などのリサイクルの推進』の項目における【実施している】の割合が、7割以上になっている。
<p>【実施していない】</p> <p>実施していないが 実施する予定がある 実施する予定はない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『廃棄物の排出抑制』、『輸送の大規模化など物流システムの見直し』、『コージェネレーションシステムの導入』、『フロン類の使用抑制・全廃・回収など排出抑制』、『環境保全のための技術開発』、『有害化学物質(農薬などを含む)の使用削減または使用回避』、『環境保全型商品、エコマーク商品などの開発、製造、販売』、『事業所内の緑化の推進』の項目で【実施していない】が 10 ポイント以上増加している。一方、『ライフサイクルアセスメントの実施』の項目では、10 ポイント以上減少している。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『太陽光発電の導入』、『ソーラーシステム(太陽熱温水器)の導入』、『風力発電の導入』の項目で、【実施していない】が7割を超えている。

※設問項目の変更による影響が原因の1つとして考えられる。以下の表に設問の対応を示す。

平成 24 年度と平成 19 年度の設問項目の対応

平成 19 年度の設問項目	平成 24 年度の設問項目
低公害車の導入	低公害車の導入など自動車公害対策の取組 電気自動車の導入
暖房(20℃以下)冷房(28℃以上)の省エネ	クールビズ、ウォームビズの取組
グリーン購入の実施	グリーン購入の実施や再生紙・再生品の使用
再生紙・再生品の使用	
汚染物質の排出抑制	窒素酸化物などの大気汚染物質および、有機物などの水質汚濁物質の排出抑制

【企業活動と環境保全の関係についての経年変化】

項目	実施している			実施していない		
	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
節電、節水などの省エネ推進	92.6	89.4	-3.2 ↓	3.5	5.9	2.4 ↑
クールビズ、ウォームビズの取組	81.3	80.1	-1.2 ↓	14.7	11.0	-3.7 ↓
廃棄物、古紙などのリサイクルの推進	82.1	78.8	-3.3 ↓	8.2	13.6	5.4 ↑
ライトダウンへの参加		66.1	新規追加		19.9	新規追加
廃棄物の排出抑制	81.0	64.0	-17.0 ↓	6.2	23.7	17.5 ↑
グリーン購入の実施や再生紙・再生品の使用※	56.2	58.1	1.9 ↑	29.2	26.3	-2.9 ↓
省エネ機器の導入	58.7	57.2	-1.5 ↓	27.3	33.1	5.8 ↑
事業所内の緑化の推進	47.8	49.6	-0.1 ↑	28.0	38.6	10.6 ↑
騒音、振動、悪臭の低減	56.4	49.2	-7.2 ↓	11.3	18.6	7.3 ↑
包装、梱包の減量化	46.3	39.8	-6.5 ↓	22.5	21.2	-1.3 ↓
低公害車の導入など自動車公害対策の取組	26.4	38.6	12.2 ↑	46.7	45.8	-0.9 ↓
事業場が周辺に及ぼす環境影響の把握		36.9	新規追加		28.8	新規追加
フロン類の使用抑制・全廃・回収など排出抑制	29.5	28.8	-0.7 ↓	15.9	29.7	13.8 ↑
窒素酸化物などの大気汚染物質および、有機物などの水質汚濁物質の排出抑制	42.0	27.1	-14.9 ↓	13.2	22.0	8.8 ↑
有害化学物質(農薬などを含む)の使用削減または使用回避	35.0	22.0	-13.0 ↓	12.4	24.2	11.8 ↑
取引先選定に当たって相手の環境配慮に係る評価	26.0	17.8	-8.2 ↓	42.8	47.9	5.1 ↑
環境負荷を低減させるための製造工程の変更	24.2	14.4	-9.8 ↓	26.1	34.7	8.6 ↑
自社製品などについての環境関連情報の提供	20.2	14.0	-6.2 ↓	30.8	37.3	6.5 ↑
環境報告書の作成・公表	15.6	13.1	-2.5 ↓	57.2	60.2	3.0 ↑
環境保全型商品、エコマーク商品などの開発、製造、販売	15.2	11.0	-4.2 ↓	22.2	33.5	11.3 ↑
環境保全のための技術開発	9.7	10.2	0.5 ↑	36.2	49.2	13.0 ↑
把握した結果の公表		9.3	新規追加		55.1	新規追加
輸送の大規模化など物流システムの見直し	19.4	8.9	-10.5 ↓	27.2	44.5	17.3 ↑
太陽光発電の導入	2.0	8.1	6.1 ↑	73.5	74.2	0.7 ↑

【企業活動と環境保全の関係についての経年変化】

項目	実施している			実施していない		
	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
ライフサイクルアセスメントの実施	7.0	7.2	0.2 ↑	62.6	44.9	-17.7 ↓
環境会計の導入	6.3	5.5	-0.8 ↓	65.4	66.9	1.5 ↑
電気自動車の導入		5.1	新規追加		79.2	新規追加
ソーラーシステム(太陽熱温水器)の導入	1.6	4.2	2.6 ↑	73.2	77.1	3.9 ↑
ESCO事業の導入	3.6	3.8	0.2 ↑	65.0	69.5	4.5 ↑
事業所間での熱の相互利用	3.6	2.1	-1.5 ↓	56.0	49.6	-6.4 ↓
バイオディーゼル燃料(BDF)の導入		1.7	新規追加		72.5	新規追加
電気自動車充電器(一般開放用)の設置		1.7	新規追加		75.8	新規追加
小水力発電の導入		1.3	新規追加		75.8	新規追加
コージェネレーションシステムの導入	7.4	1.3	-6.1 ↓	61.1	75.8	14.7 ↑
バイオマスエネルギーの導入		1.3	新規追加		73.3	新規追加
風力発電の導入	0.4	0.8	0.4 ↑	70.8	76.7	5.9 ↑

※『グリーン購入の実施や再生紙・再生品の使用』の項目にある平成 19 年度の構成割合は、『グリーン購入の実施』と『再生紙・再生品の使用』の割合を平均している。(平成 24 年度に平成 19 年度の設問項目を統合したため)。

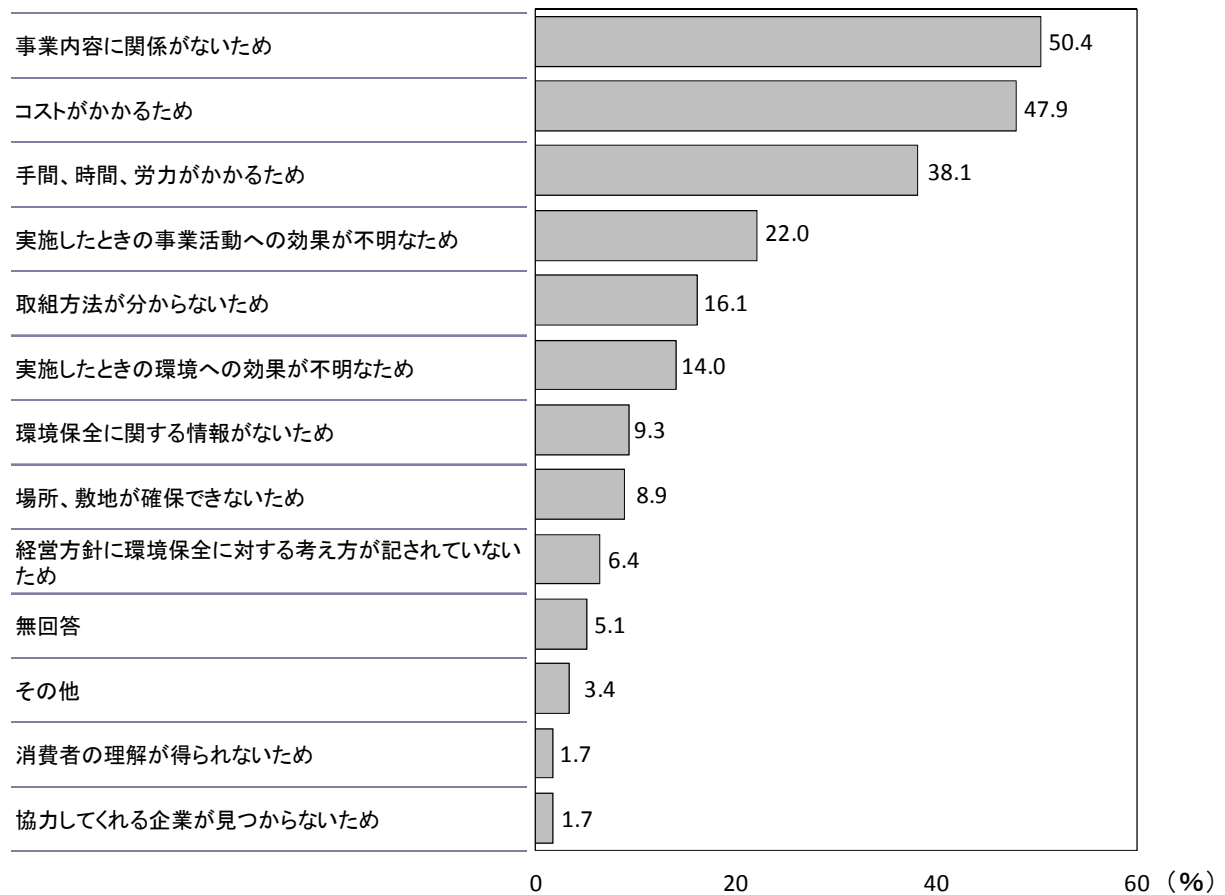
【実施していない要因】

現在実施していない項目について、実施していない主な要因は何だと思えますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『事業内容に関係がないため』という項目が最も高く、次いで『コストがかかるため』、『手間、時間、労力がかかるため』という経営面や労働面への負担を挙げる項目の順になっている。

(複数回答)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・13 項目中の3項目で増加、10 項目で減少している。
増加した項目	・『事業内容に関係がないため』という項目が 10 ポイント以上増加している。
減少した項目	・10 ポイント以上減少した項目は見られない。

【実施していない要因についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
事業内容に関係がないため	38.1	50.4	12.3 ↑
コストがかかるため	49.4	47.9	-1.5 ↓
手間、時間、労力がかかるため	39.7	38.1	-1.6 ↓
実施したときの事業活動への効果が不明なため	23.0	22.0	-1.0 ↓
取組方法が分からないため	16.3	16.1	-0.2 ↓
実施したときの環境への効果が不明なため	9.7	14.0	4.3 ↑
環境保全に関する情報がないため	13.2	9.3	-3.9 ↓
場所、敷地が確保できないため	13.6	8.9	-4.7 ↓
経営方針に環境保全に対する考え方が記されていないため	3.5	6.4	2.9 ↑
無回答	7.4	5.1	-2.3 ↓
その他	4.7	3.4	-1.3 ↓
消費者の理解が得られないため	3.9	1.7	-2.2 ↓
協力してくれる企業が見つからないため	2.3	1.7	-0.6 ↓

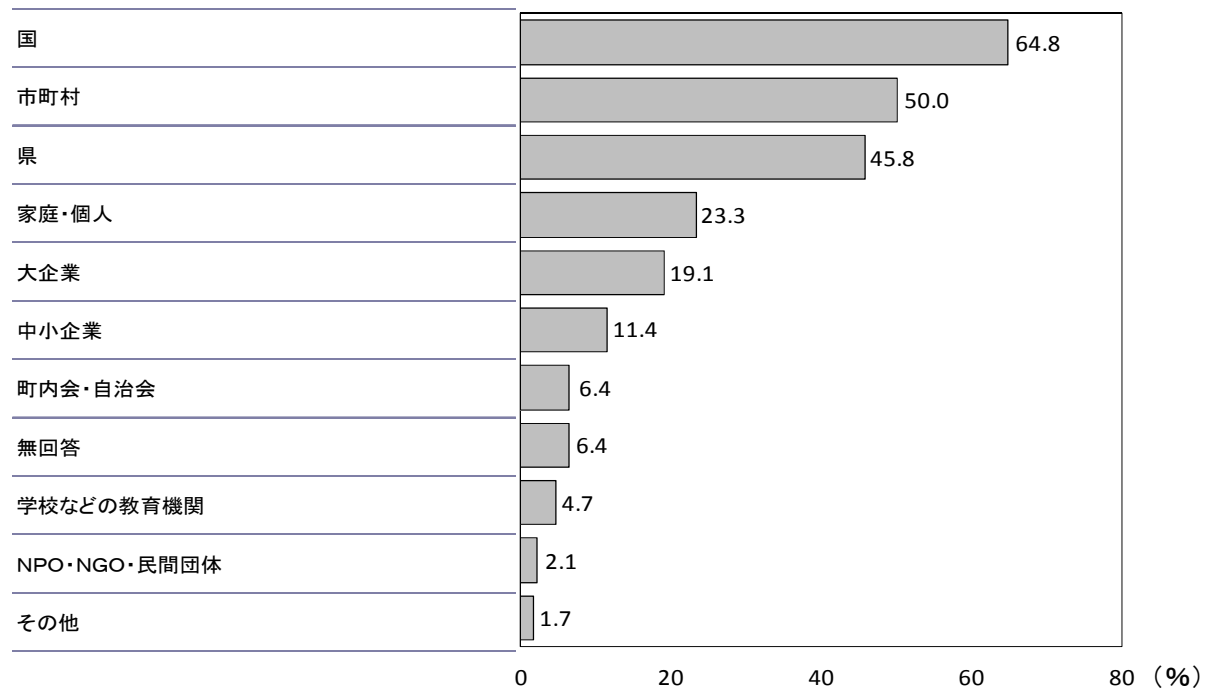
【環境保全を進めるために活動すべき主体について】

環境保全を進めるためには、だれが主に活動すべきと思いますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『国』という項目が最も高く、次いで『市町村』、『県』という項目の順となっており、行政が主に活動すべきという割合が高くなっている。

(複数回答:3つまで)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・11 項目中の4項目で増加、7項目で減少している。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『国』という項目が6割を超えている。
増加した項目	・『市町村』と『無回答』という項目の増加が比較的大きくなっているが、10 ポイント以上増加した項目はなかった。
減少した項目	・『大企業』という項目が 10 ポイント以上減少している。

【環境保全を進めるために活動すべき主体についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
国	67.3	64.8	-2.5 ↓
市町村	45.5	50.0	4.5 ↑
県	44.4	45.8	1.4 ↑
家庭・個人	32.3	23.3	-9.0 ↓
大企業	29.2	19.1	-10.1 ↓
中小企業	13.6	11.4	-2.2 ↓
町内会・自治会	5.1	6.4	1.3 ↑
無回答	2.3	6.4	4.1 ↑
学校などの教育機関	6.6	4.7	-1.9 ↓
NPO・NGO・民間団体	2.7	2.1	-0.6 ↓
その他	2.7	1.7	-1.0 ↓

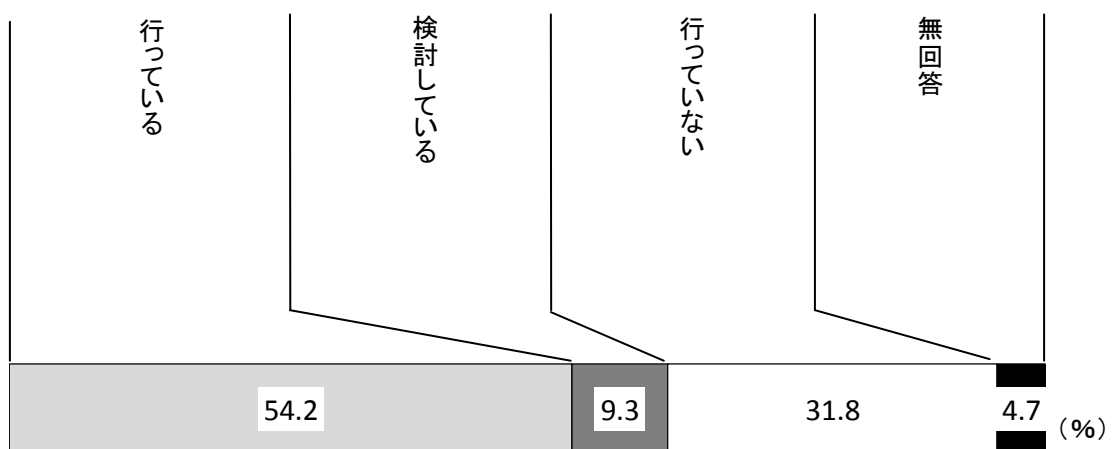
(%)

【環境に関する社会貢献活動について】

貴事業所では、事業所の立地地域周辺で環境に関する社会貢献活動を行っていますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『行っている』が5割を超えて最も高く、次いで『行っていない』の順になっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・『行っていない』という項目で約6ポイント減少しているが、10ポイント以上の違いは見られない。

【環境に関する社会貢献活動についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	
行っている	50.6	54.2	3.6	↑
検討している	10.5	9.3	-1.2	↓
行っていない	37.4	31.8	-5.6	↓
無回答	1.6	4.7	3.1	↑

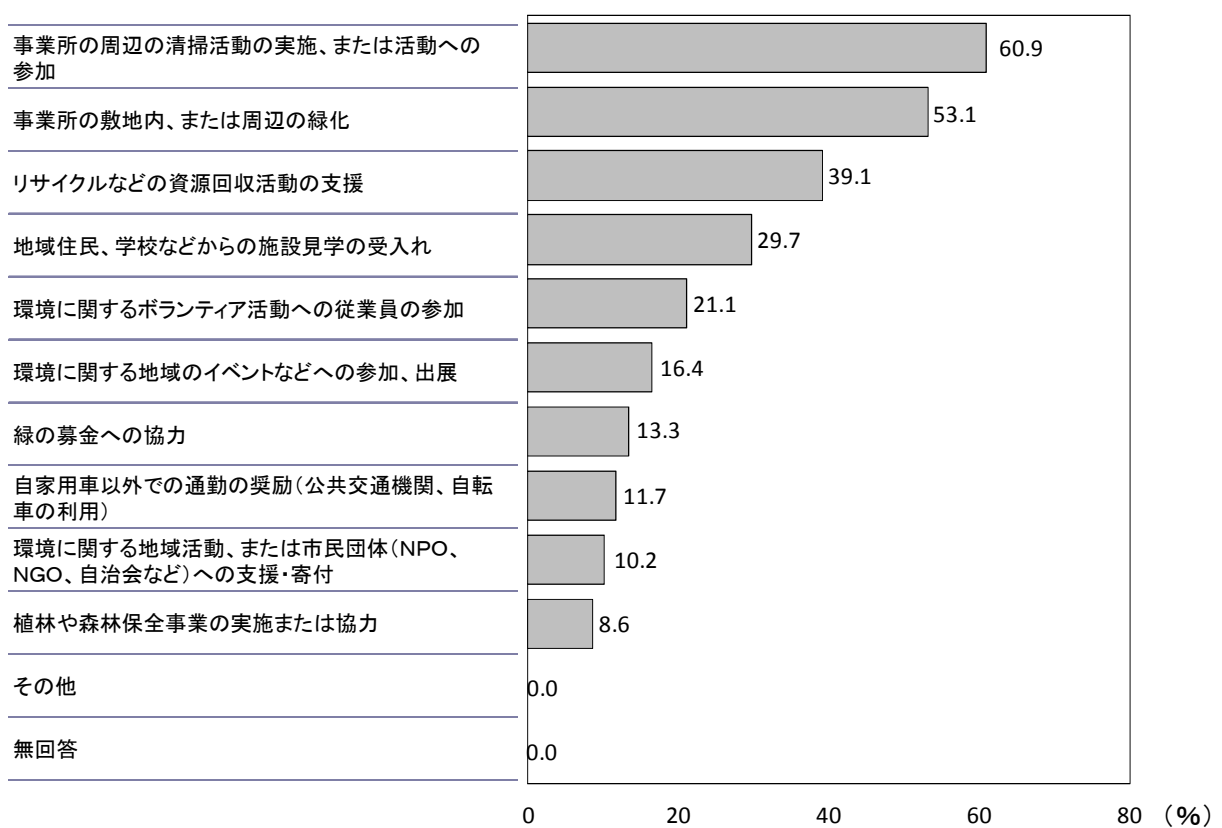
【実施している社会貢献活動の分野】

貴事業所はどのような社会貢献活動を実施していますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『事業所の周辺の清掃活動の実施、または活動への参加』という項目が最も高く、次いで『事業所の敷地内、または周辺の緑化』、『リサイクルなどの資源回収活動の支援』という項目の順となっている。

(複数回答)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・新規追加を除く 11 項目中の7項目で増加、4項目で減少している。 ・平成 24 年度、平成 19 年度ともに、『事業所の周辺の清掃活動の実施、または活動への参加』が6割を超えている。
増加した項目	・『事業所の敷地内、または周辺の緑化※』の項目で、20 ポイント以上増加している。
減少した項目	・『事業所の周辺の清掃活動の実施、または活動への参加※』という項目が 10 ポイント以上減少している。

※設問項目の変更による影響が原因の1つとして考えられる。以下の表に設問の対応を示す。

平成 24 年度と平成 19 年度の設問項目の対応

平成 19 年度の設問項目	平成 24 年度の設問項目
清掃活動の実施又は参加	事業所の周辺の清掃活動の実施、または活動への参加
事業所敷地周辺の緑化	事業所敷地内、または周辺の緑化
植林活動の実施	植林や森林保全事業の実施または協力

【実施している社会貢献活動の分野についての経年変化】

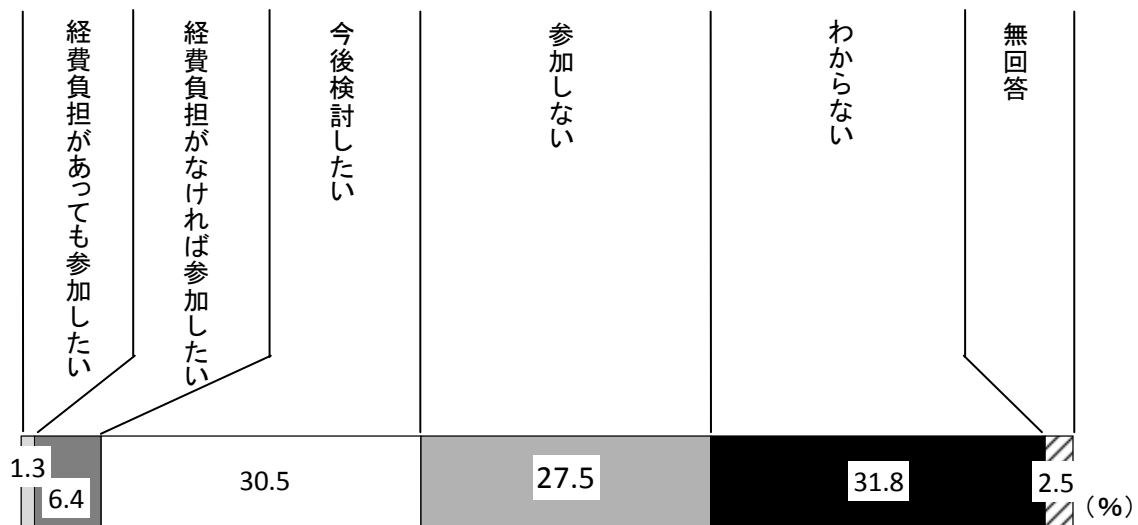
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
事業所の周辺の清掃活動の実施、または活動への参加	79.2	60.9	-18.3 ↓
事業所の敷地内、または周辺の緑化	29.2	53.1	23.9 ↑
リサイクルなどの資源回収活動の支援	34.6	39.1	4.5 ↑
地域住民、学校などからの施設見学の受入れ	26.9	29.7	2.8 ↑
環境に関するボランティア活動への従業員の参加	18.5	21.1	2.6 ↑
環境に関する地域のイベントなどへの参加、出展	15.4	16.4	1.0 ↑
緑の募金への協力		13.3	新規追加
自家用車以外での通勤の奨励(公共交通機関、自転車の利用)	10.0	11.7	1.7 ↑
環境に関する地域活動、または市民団体(NPO、NGO、自治会など)への支援・寄付	11.5	10.2	-1.3 ↓
植林や森林保全事業の実施または協力	6.9	8.6	1.7 ↑
その他	2.3	0.0	-2.3 ↓
無回答	0.8	0.0	-0.8 ↓

【環境保全に関する企業の取組を対外的にPRする場への参加意向】

環境保全に関する企業の取組を対外的にPRする場があれば参加したいですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『わからない』が最も高く、次いで『今後検討したい』、『参加しない』という項目が高くなっている。反対に、環境保全に関する企業の取組をPRする意欲のある事業所の割合は低くなっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・6項目中2項目で増加、4項目で減少している。
増加した項目	・『参加しない』で、10ポイント以上増加している。
減少した項目	・『今後検討したい』で10ポイント近く減少している。 ・【PRする場があれば参加したい、あるいは検討したい】という趣旨の項目は、3つとも減少している。

【環境保全に関する企業の取組を対外的にPRする場への
参加意向についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	
経費負担があっても参加したい	3.1	1.3	-1.8	↓
経費負担がなければ参加したい	8.9	6.4	-2.5	↓
今後検討したい	38.5	30.5	-8.0	↓
参加しない	15.2	27.5	12.3	↑
わからない	31.1	31.8	0.7	↑
無回答	3.1	2.5	-0.6	↓

【環境ビジネスの重要性】

環境ビジネスは、貴事業所の今後の経営にとって重要なものになるとお考えですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『あまり重要にならない』という項目が最も高く、次いで『ある程度重要になる』という項目の順になっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・5項目中の3項目で増加、2項目で減少している。
増加した項目	・『全く関係ない』という項目で 10 ポイント以上増加している。
減少した項目	・『とても重要になる』、『ある程度重要になる』という項目で、10 ポイント近く減少している。 ・【環境ビジネスをある程度以上重要視している】趣旨の項目は、2つとも減少している。

②

【環境ビジネスの重要性についての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19	
とても重要になる	19.8	10.2	-9.6	↓
ある程度重要になる	37.0	28.4	-8.6	↓
あまり重要にならない	28.8	33.9	5.1	↑
全く関係ない	12.1	23.7	11.6	↑
無回答	2.3	3.8	1.5	↑

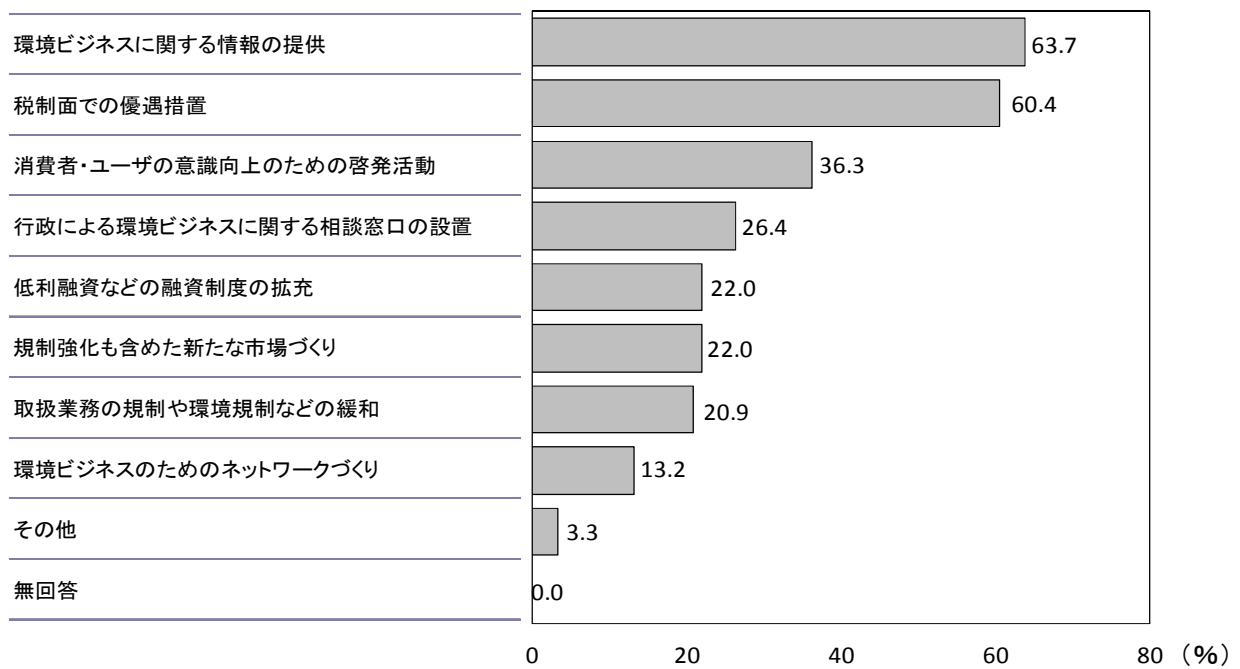
【環境ビジネスの進展のために行政に望むこと】

今後、貴事業所での環境ビジネスの進展のために行政にどのようなことを望みますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『環境ビジネスに関する情報の提供』と『税制面での優遇措置』という項目が6割を超え高くなっている。

(複数回答)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・10 項目中の6項目で増加、4項目で減少している。
増加した項目	・『環境ビジネスに関する情報の提供』の項目で、10 ポイント以上増加している。
減少した項目	・10 ポイント近く減少している項目は見られない。

【環境ビジネスの進展のために行政に望むことについての経年変化】

項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
環境ビジネスに関する情報の提供	47.9	63.7	15.8 ↑
税制面での優遇措置	63.7	60.4	-3.3 ↓
消費者・ユーザの意識向上のための啓発活動	34.9	36.3	1.4 ↑
行政による環境ビジネスに関する相談窓口の設置	24.0	26.4	2.4 ↑
低利融資などの融資制度の拡充	17.1	22.0	4.9 ↑
規制強化も含めた新たな市場づくり	13.7	22.0	8.3 ↑
取扱業務の規制や環境規制などの緩和	21.2	20.9	-0.3 ↓
環境ビジネスのためのネットワークづくり	17.1	13.2	-3.9 ↓
その他	0.7	3.3	2.6 ↑
無回答	2.1	0.0	-2.1 ↓

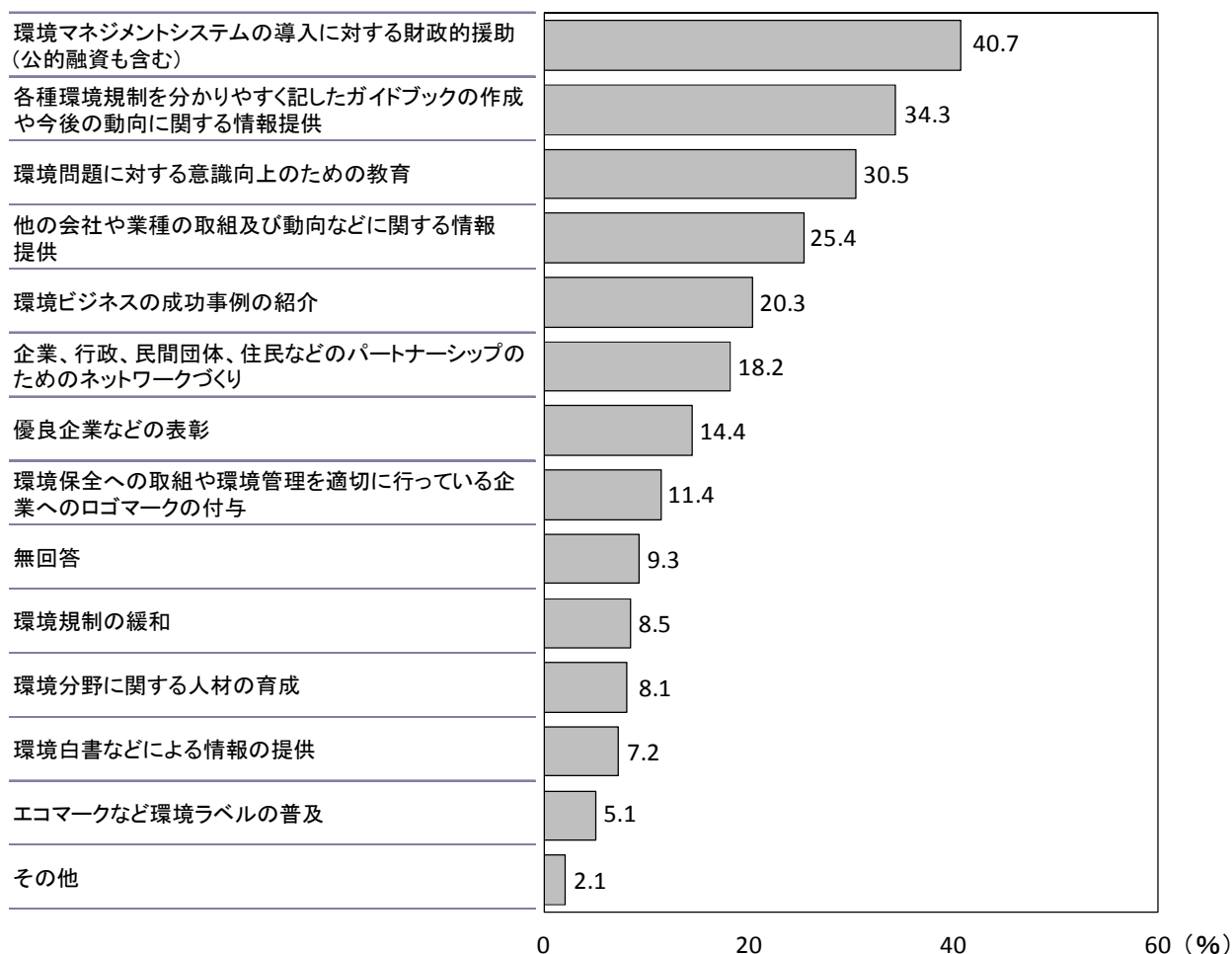
【環境保全への取組を推進していくために、行政に期待すること】

貴事業所の自主的な環境保全への取組を推進していくために、行政にどのようなことを期待しますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『環境マネジメントシステムの導入に対する財政的援助(公的融資も含む)』という項目が最も高く、次いで『各種環境規制を分かりやすく記したガイドブックの作成や今後の動向に関する情報提供』、『環境問題に対する意識向上のための教育』という項目の順になっている。

(複数回答)



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・新規追加を除く 13 項目中の 5 項目で増加、8 項目で減少している。
増加した項目	・『環境マネジメントシステムの導入に対する財政的援助(公的融資も含む)』の項目で、10 ポイント以上増加している。
減少した項目	・『環境分野に関する人材の育成』の項目で、10 ポイント以上減少している。

【環境保全への取組を推進していくために、行政に期待することについての経年変化】

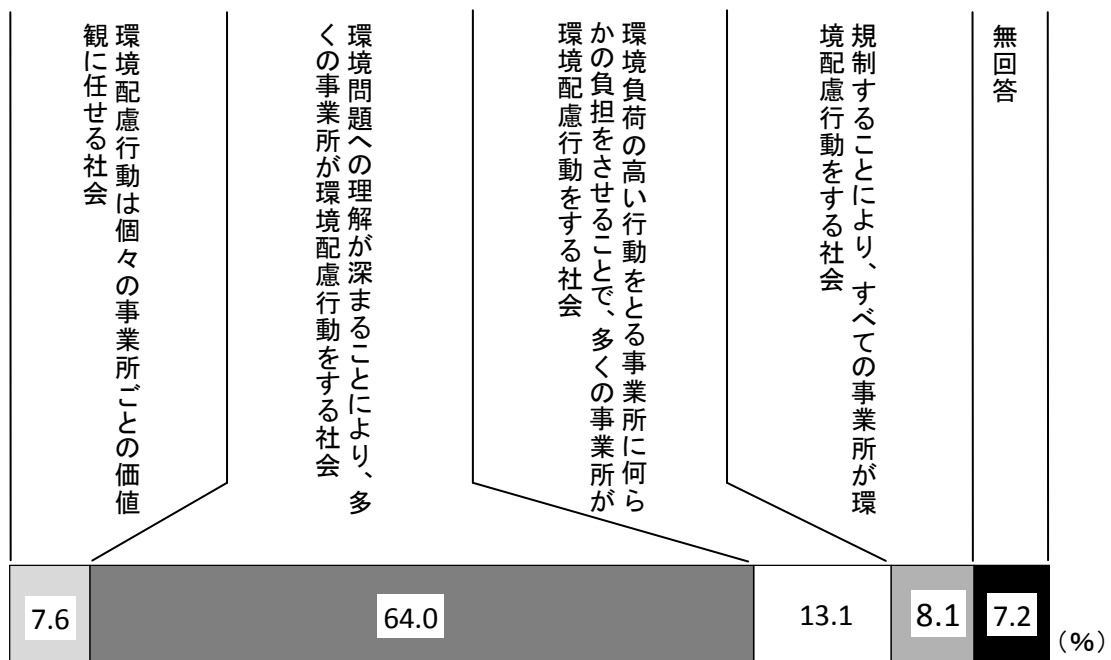
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
環境マネジメントシステムの導入に対する 財政的援助(公的融資も含む)	29.6	40.7	11.1 ↑
各種環境規制を分かりやすく記したガイド ブックの作成や今後の動向に関する情報 提供	41.2	34.3	-6.9 ↓
環境問題に対する意識向上のための教育	35.8	30.5	-5.3 ↓
他の会社や業種の取組及び動向などに 関する情報提供	25.3	25.4	0.1 ↑
環境ビジネスの成功事例の紹介	20.2	20.3	0.1 ↑
企業、行政、民間団体、住民などのパート ナーシップのためのネットワークづくり	11.3	18.2	6.9 ↑
優良企業などの表彰	17.1	14.4	-2.7 ↓
環境保全への取組や環境管理を適切に 行っている企業へのロゴマークの付与	16.3	11.4	-4.9 ↓
無回答	10.5	9.3	-1.2 ↓
環境規制の緩和	4.7	8.5	3.8 ↑
環境分野に関する人材の育成	24.1	8.1	-16.0 ↓
環境白書などによる情報の提供		7.2	新規追加
エコマークなど環境ラベルの普及	8.9	5.1	-3.8 ↓
その他	3.9	2.1	-1.8 ↓

【環境配慮に関する社会のあり方】

岡山県では環境基本計画を策定し、2020年度を目途に各種施策に取り組んでいます。2020年頃の県の環境はどのようにあるべきだとお考えですか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・『環境問題への理解が深まることにより、多くの事業所が環境配慮行動をする社会』という項目が約6割となっている。



●平成 19 年度との比較

項目	経年比較した結果の要点
全体	・5項目中の3項目で増加、2項目で減少している。
増加した項目	・『環境配慮行動は個々の事業所ごとの価値観に任せる社会』という項目が、約6ポイント増加している。
減少した項目	・『規制することにより、すべての事業所が環境配慮行動をする社会』という項目で、10ポイント近く減少している。

【環境配慮に関する社会のあり方についての経年変化】

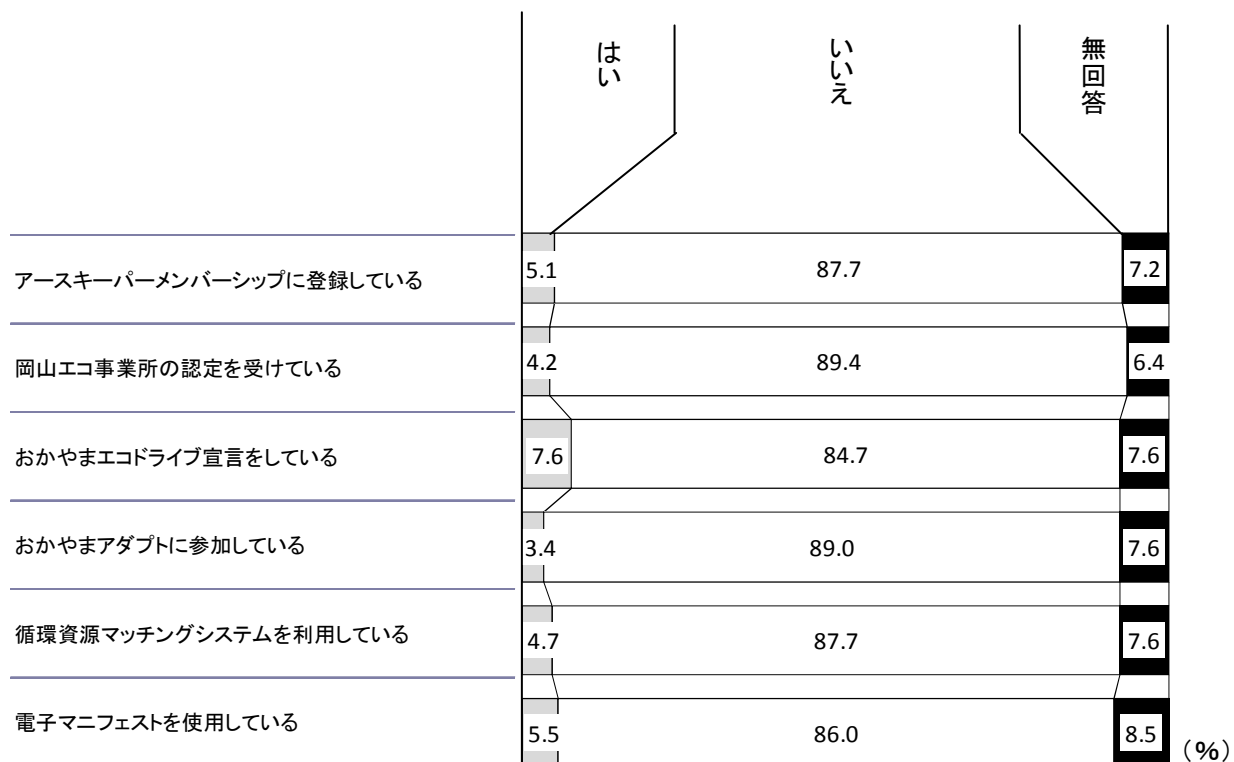
項目	H19の 構成割合	H24の 構成割合	H24-H19
環境配慮行動は個々の事業所ごとの価値観に任せる社会	1.9	7.6	5.7 ↑
環境問題への理解が深まることにより、多くの事業所が環境配慮行動をする社会	59.9	64.0	4.1 ↑
環境負荷の高い行動をとる事業所に何らかの負担をさせることで、多くの事業所が環境配慮行動をする社会	15.2	13.1	-2.1 ↓
規制することにより、すべての事業所が環境配慮行動をする社会	16.7	8.1	-8.6 ↓
無回答	6.2	7.2	1.0 ↑

【岡山県が進めている取組の認知度】

岡山県が進めている様々な取組のうち、次にあげる項目について、どれにあてはまりますか？

●平成 24 年度

項目	結果の要点
全体	・すべての取組で、「はい」と回答した割合は、1割を下回っている。



この問いについては、平成 19 年度に設問がなく、平成 24 年度になって設問を新設したため、経年変化の比較対象から除外している。